

Establishing English learning clubs and events that offers students in my grade level to use English freely and learn at a higher standard (PP)

PPのタイトル

Establishing English learning clubs and events that offers students in my grade level to use English freely and learn at a higher standard
 同じ学年の生徒が自由に英語を使い、より高い水準で学べる英語学習クラブやイベントを設立する

PPの学習目標

To explore the effectiveness of various English-related events in my community
 様々な英語学習を目標にしたイベントの効果コミュニティで調査する

なぜこのテーマで行ったのか

長期的に積み上げてきた自分の英語力をどのように社会への貢献として使えるだろうか、という問いから考え始めた。TGUISSの生徒は帰国子女が多く、英語が強いとされているが、課題があると感じた。それは日常において**英語に触れる機会が非常に少ない**ということである。少しでもこれを増やすことが求められていると感じ、このように自由かつ高い水準で英語を学べる**英語学習の場を立ち上げる**ことに大きな意義を感じた。もちろん、これは最初から全校生徒に向けて行うのは困難である。したがって、最初は同学年の生徒を対象に進め、のちに、他学年も交えつつ進めていくのを目標にした。

どういう活動を行ったか



①英語交流会

三本の柱との関係性

人間理解
 このプロジェクトを通して、多くに**人と関わる機会**を得た。英語の読み聞かせを石神井図書館で行った際、客層にあった本を選び、**みんなが楽しめるようなイベントを企画するには人の心や感情、何を求めているのか**を考える必要があると理解した。

国際理解
 このプロジェクトは**言語の壁を超えたコミュニケーションに挑戦**した。母語でない言語を「使う」、「習う」、「教える」の三種の交流の場を設けることで、より**国際的な思想**を広げた。



②ISSstorytellers



③英語ワークショップ

ATLスキルとの関係性①

コミュニケーションスキル

iss15_eigokouryu

12 投稿 59 フォロワー 41 フォロー中

次回の英語交流会!
 5月14日(火)
 16:00-17:00
 @TGUISS Media-Center

ロメジュリを部分的に読みます!
 解説しながらみんなで役を分けて読んでいきたいと思ってます!
ぜひ参加してください!

1学期英語交流会の活動予定!

5/7(水) 16:30~	@TGUISS Media Center	Discussions ディスカッション	ロメジュリを部分的に読む?
5/14(火) 16:00~	@TGUISS Media Center	Read aloud a play 劇を朗読	
5/21(火) 16:30~	@TGUISS Media Center	Discussions ディスカッション	もしかしら
5/28(火) 16:00~	@TGUISS Media Center	Learn about an author 著者を知ろう	E.A. Poe とか??
6/1(土) 14:00~	@石神井図書館	Reading aloud a children's book 英語の絵本を読み聞かせ	
6/11(水) 16:00~	@TGUISS Media Center	Creative Writing ライティング	
6/18(水) 16:00~	@TGUISS Media Center	Discussions ディスカッション	

6月1日のボランティアについては応募が必要です!

THINKING ABOUT WHEELCHAIR USERS
 車いす利用者について考えよう!
 活動場所: 4年2組の教室
JUNE 15TH
 6月15日(金) 15:30-16:30
 Presented by Akemi, Projecta, Tomoko, Yuriko

イベントを企画するにおいて、**人集め**は欠かせなかった。**情報共有**や**ボランティアの応募**の呼びかけを行うにあたって、直接人に声をかけるだけでなく、**コミュニケーションの手段**としてInstagramを活用した。また、企画した3つのイベント(英語交流会・ISSstorytellers・英語ワークショップ)をそれぞれ**関連付けて考えた**。交流会の一環として読み聞かせを企画したり、ワークショップの参加者を交流会のInstagramアカウントを用いて募集した。

ATLスキルとの関係性②

振り返りスキル

Reflection of Storytelling 6/1 at Shakujii Library

Good parts:

- Interaction with kids
- Nicely Prepared
- Time Management
- Decoration

Improve:

- Distribution of jobs
- Unclear on how much to interact
- objective was unclear
- Interaction with parents
- Choice of book

What do we want to achieve from storytelling?

Thinking from the perspective of the audience, which books should we read? And at what level?

Plan for the next event
 >30 min.
 >No max audience

- Theme: book, decoration, activity, etc.
- Member: Same? New? How many people?
- Idea for creating t-shirts
- Idea for setting up Instagram
- Preparation dates and communication with the librarian

それぞれの活動後に企画に携わったメンバーで集まり、**振り返り会**を行った。2024年6月1日に石神井図書館で行った読み聞かせの振り返り会では、**次回に向けての方針**を話し合った。ミーティングでは、**よかった点と改善点**を書き出し、**どのように工夫できるかのアイデア**を出し合った。
 考えたこと例:
 今回の読み聞かせで感じたのは**対象が明確でなかった**ことから、受け手にあったレベルの絵本を選択できていなかった。次回(はどのようにして絵本を選択するのか。**具体的なテーマと対象**を設定し、それに伴った英語のレベルで考える。今後は英語での絵本をどのように**理解**してもらうかについて考える。

ATLスキルとの関係性③

協働スキル

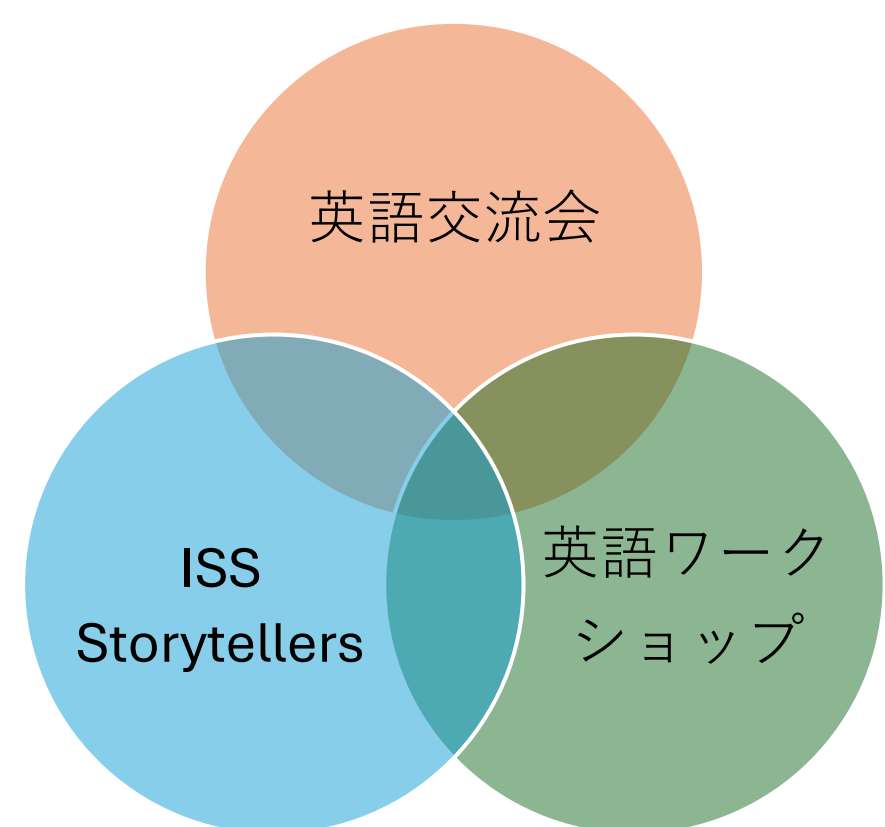


メンバーみんなと一緒に活動すると同時に、**リーダー**の役割を受け持った。企画の準備段階において、小道具やポスターを作成するのにボランティアの生徒を集め、協働した。その際にも、**リーダーとして指示を的確かつ明確に共有**する必要があった。
 写真1: 同級生と協働し、ワークショップを開催した。企画の段階から始め、**アイデアの共有や実践**の大切さに気づいた。
 写真2: 読み聞かせ会に向けての準備のために小道具作成会を開いた。それに向けての人集め、情報共有、当日の仕切りを担当した。
 写真3・4: 読み聞かせを行った際に、**リーダーとして**の大役を受け持った。写真4は終わりの挨拶をしている時の写真である。

PPを受けて、これからの展望

私の研究では、日本の教育という視点からこの課題を明らかにしてかつ英語を身近なものにするために何ができるかを考察していく。

PPでの活動



今後の活動

小学校での英語授業
 目的:
 日本の英語教育の現状を実際に学生たちと触れ合うことで知る。

台湾Study Tour
 目的:
 多様な経験を持つ海外の生徒と交流し、他国の英語教育についての意見を伺う

最終的な目標

多様な活動を行うことによって視野を広げ、より具体的かつ創造的に研究を進めていく。なお、実際にどのように日本の英語教育を変えていくべきなのかについて考え、実現させる。

同級生にとって「かっこいい」と思われる「仮面ライダー」をデザインする (PP)

PPのタイトル

同級生にとってかっこいいと思われる仮面ライダーをデザインする

PPの学習目標

かっこいいと思われる仮面ライダーをデザインし、評価対象である同級生にとって「かっこいい」とは何なのかについて考察する

なぜこのテーマで行ったのか

昔から【図1】に載っている東映製作の仮面ライダーを見続けている。そこで、【図1】の中には一般的に「ダサイ」といわれた仮面ライダーも中にはあった。「ダサイ」といわれている理由を検索したところ、「色が派手すぎる」、「ピンクを使っている」など色彩的な問題点や「初代の仮面ライダーは生物なのにそこからかけ離れているものがある」、「フォーム数が多すぎる」などといった問題点があった。そこで、「ダサイ仮面ライダーがいること」に関して問題視したため、「かっこいい仮面ライダー」をデザインすることにした。【図1】歴代仮面ライダー

*フォーム数・・・変身後の姿を「フォーム」と呼び、ライダーによっては複数のフォームを持つものもいる。



https://a.com/HKR20_official/issue/148871506420121176
https://bbs.animatch.com/board/297336/?

どういった活動を行ったのか

元々説明力がなさ過ぎたため、説明力を上げるためにあえて生成AIにデザインさせた。「かっこいい仮面ライダー」をデザインさせるために上記に上がった問題点をもとに、「色彩」「生物」「フォーム数」という3つの観点を留意し、それをもとに【図1】に載っている歴代仮面ライダーではこの3要素がどのように使われているのかを事前調査した。そして事前調査した要素をどのようにして「かっこいい仮面ライダー」に取り入れていくのかを考えて生成AIに特徴を入力しデザインさせた。

そして、それを同級生に評価してもらった。



ATLスキルとの関係性①

コミュニケーションスキル



説明：

今回の対象の同級生はほぼ誰も仮面ライダーを詳しく知らない。しかし、アンケートを取るときに「フォーム数」といった言葉を当たり前のように使ってしまった。しかし、それだと「仮面ライダー知っている前提になりすぎている」と指摘され、「フォーム数」に関する説明を以下の図のようにきめ細かくすることにつながった。

ATLスキルとの関係性②

情報リテラシースキル

仮面ライダー
シンプルで落ち着いたデザイン
バッタのライダー（色は緑色）

同一内容打ち直しなし。
何回でも内容追加し放題

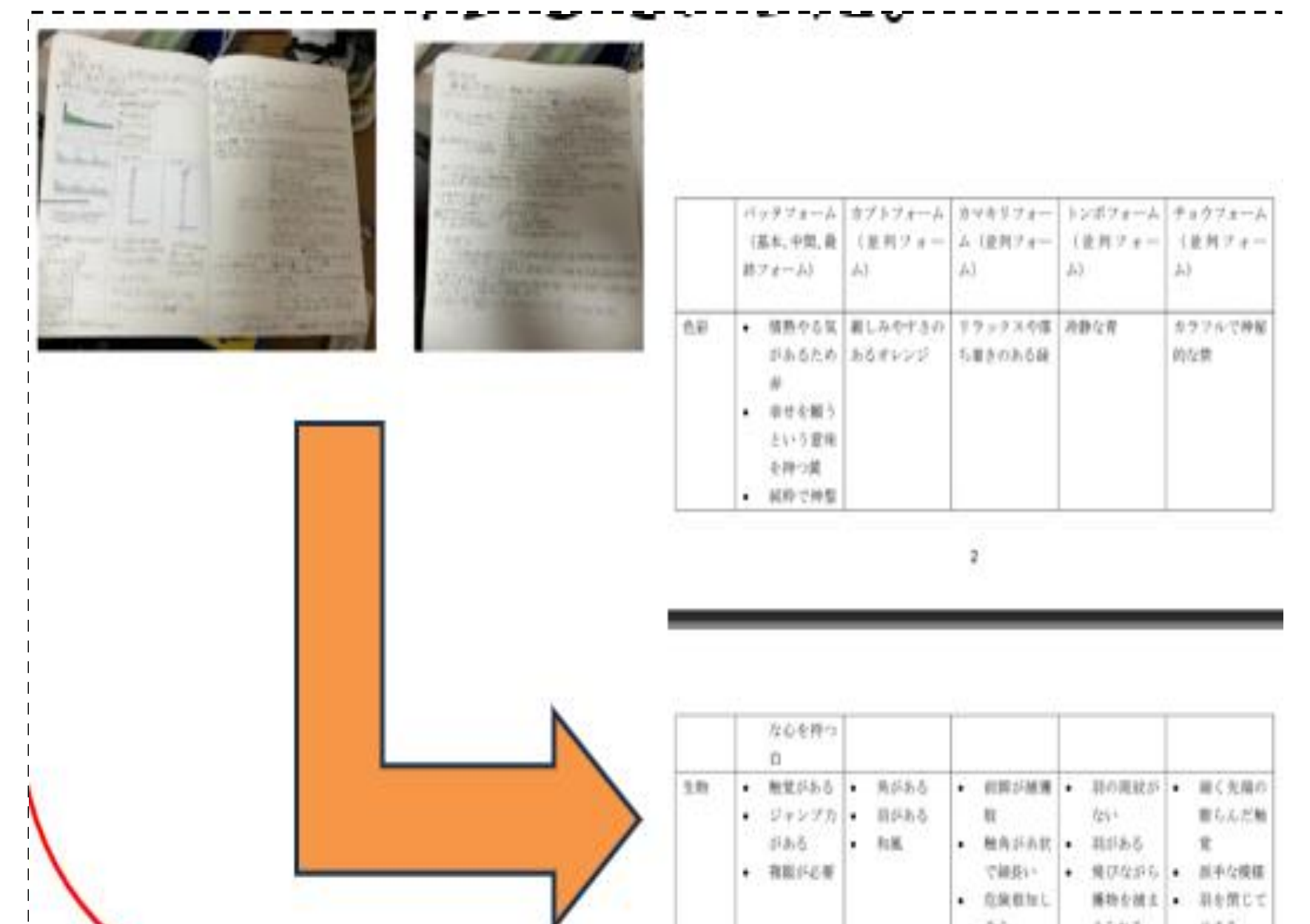
仮面ライダー
シンプルで落ち着いたデザイン
バッタのライダー（色は緑色）
ベースボディは黒
赤白黄色も少しは含ませる。
複眼の間に単眼を含ませる

説明：

今回、かっこいい仮面ライダーをデザインするにあたり、画像生成AIを用いた。その時に画像生成AIの「何回でも無料で生成できる」といったほかの生成AIにはない特性を最大限に活かすことがこのスキルの執行につながった。

ATLスキルとの関係性③

批判的思考スキル



説明：

今回の研究において「かっこいい仮面ライダー」をデザインするにしてもノーブランチにやったらPPとしてやる意味がない。そこで今回は、「色彩」「生物」「フォーム数」という3つの観点を立てた。その3つを用いて自分の「かっこいい仮面ライダー」を歴代の仮面ライダーの傾向を参考にしながらデザインしていった。

PPを受けて、これからの展望

まず、今回の研究に対する結論について、【図2】に載っているものを同級生に「色彩」「生物」「フォーム数」の観点から評価してもらった。そして結果として、以下のようなになり、以下のような結論に至った。

【図16】仮面ライダーのフォーム数について



結論

- 「フォーム数」は同級生にとっても多い
- 「色彩」では色彩心理学的意図がはっきりと同級生にも伝わっており、「かっこいい」と感じてもらえている。
- 「生物」に関しては虫モチーフが苦手な「かっこいい」と感じてもらえなかった。

今後の展望として、まずこの研究を進めるのだとしたら、無生物の仮面ライダーをデザインして再評価してもらいたいと考えた。また、今後の学習においては今回生かしたATLスキルについて、「その分野を何も知らない人でもわかるような説明を心がける」、「機械の特性を生かしてそれを最大限活用する」、「実験や検証を行うときに先行研究からある程度の研究を洗い出す」の3点を学び、今後も意識していこうと考えた。

三本の柱との関係性

人間理解
僕はPPで色彩、生物、フォーム数の3観点からかっこいい仮面ライダーをデザインして、それが同級生にとってかっこいいかを評価してもらった。そして、「生物のモチーフ（昆虫）が嫌だ。虫が苦手だから無理」といったコメントが多数上がったことより、同級生にとってのかっこいい仮面ライダーとは昆虫モチーフが入っていることではないといった結論に至った。それが、同級生のかっこいいの基準を研究する（理解する）といったことにつながった。

理数探求
30人という少人数の票にもかかわらず定量データを用いて成果物を評価した。

国際理解
次は世界のヒーロー作品との比較や海外の仮面ライダーファンの反応を見てみたい。

日本の学生に向けた中国紹介冊子の作成(PP)

PPのタイトル

日本の学生に向けた中国紹介冊子の作成

PPの学習目標

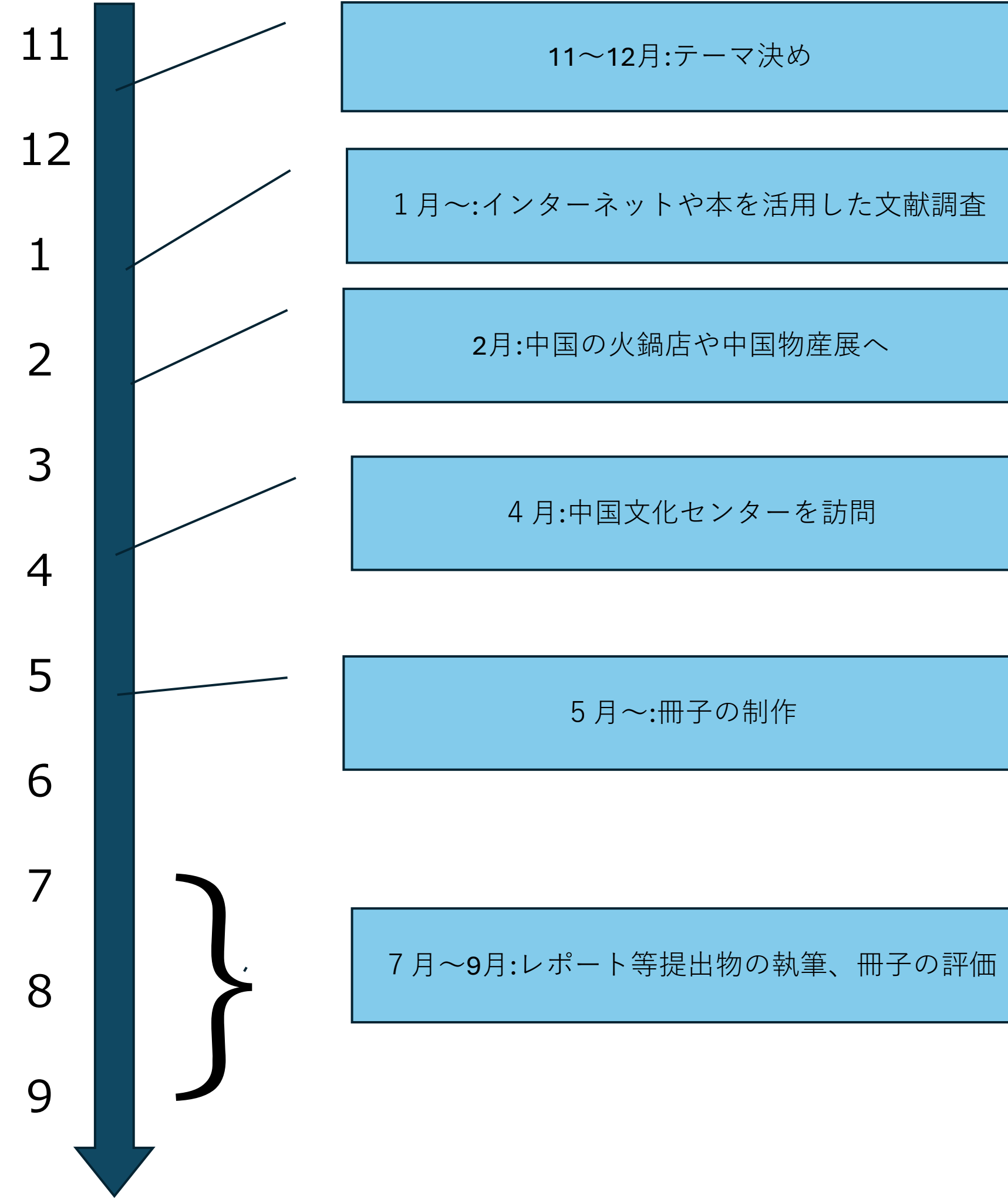
中国について多角的に学びその魅力を他者に伝えること

なぜこのテーマで行ったのか

私はもともと中国ドラマがきっかけで、中国の文化や人々、言語に深く興味を持っていた。また、学校の同級生には中国にルーツがある人も多く、彼らとの会話の中で中国について教えてもらう機会もあった。中国人の暖かさや文化、歴史の奥深さに魅入られ、日に日に中国のことが大好きになった。しかし、友人の中には中国に対して悪いイメージを持っている人も多く、「なんで中国語なんか勉強するの?」「中国人は性格が悪い」といわれることもある。実際、2021年の日本の世論調査では中国に対しての印象が「良くない」「どちらかといえば良くない」と回答した割合は90%以上に及んだ。(関谷,2021)

しかし私は、日本人に中国に対する印象が悪いのはメディアによって発信されるマイナスな面の情報しか得ていないためだと考える。中国の王毅外相は、「第16回東京-北京フォーラム」(言語NPOにより2020年に開催)において、「日本社会の中国認識には偽りと問題がある」(工藤,2020)「生き生きとした真実を客観的に報道すべきだ」(工藤,2020)と指摘した。また袁氏は、日本はポジティブな報道が乏しく、マイナスなニュースによる「マイナスな螺旋形状」(工藤,2020)から抜け出せておらず、事実に適さない報道だと指摘した。これらの有識者の発言からも分かるように、日本人の中国に対する印象の悪化は、メディアによる中国の不当な評価が原因の一つである。そこで、私はメディアでは取り上げられづらい、中国のポジティブな側面についての情報を調べ、友人をはじめとする周りの人に発信する冊子を作成することで中国について正しく客観的に理解してほしいと思う。

どんな活動を行ったか



ATLスキルとの関係性①

コミュニケーションスキル



①さまざまな受け手とのコミュニケーションに必要な多様な会話テクニックをとる

・火鍋屋や、中国文化センター、中国物産展での会話

→学んだ中国語や好きな中国ドラマの話をしたことでより親密な関係を築くことができた。

②コミュニケーションを解釈する際に多様な文化の理解を用いる

鲁迅の「阿Q正伝」を読むことで、中国清王朝末期の国民の苦しみや政治への不満を実感し、中国人の心情や考え方の理解につながった。異なる文化を持つ人々のコミュニケーションにおいて、歴史的背景を尊重することは重要。

ATLスキルとの関係性①

メディアリテラシースキル



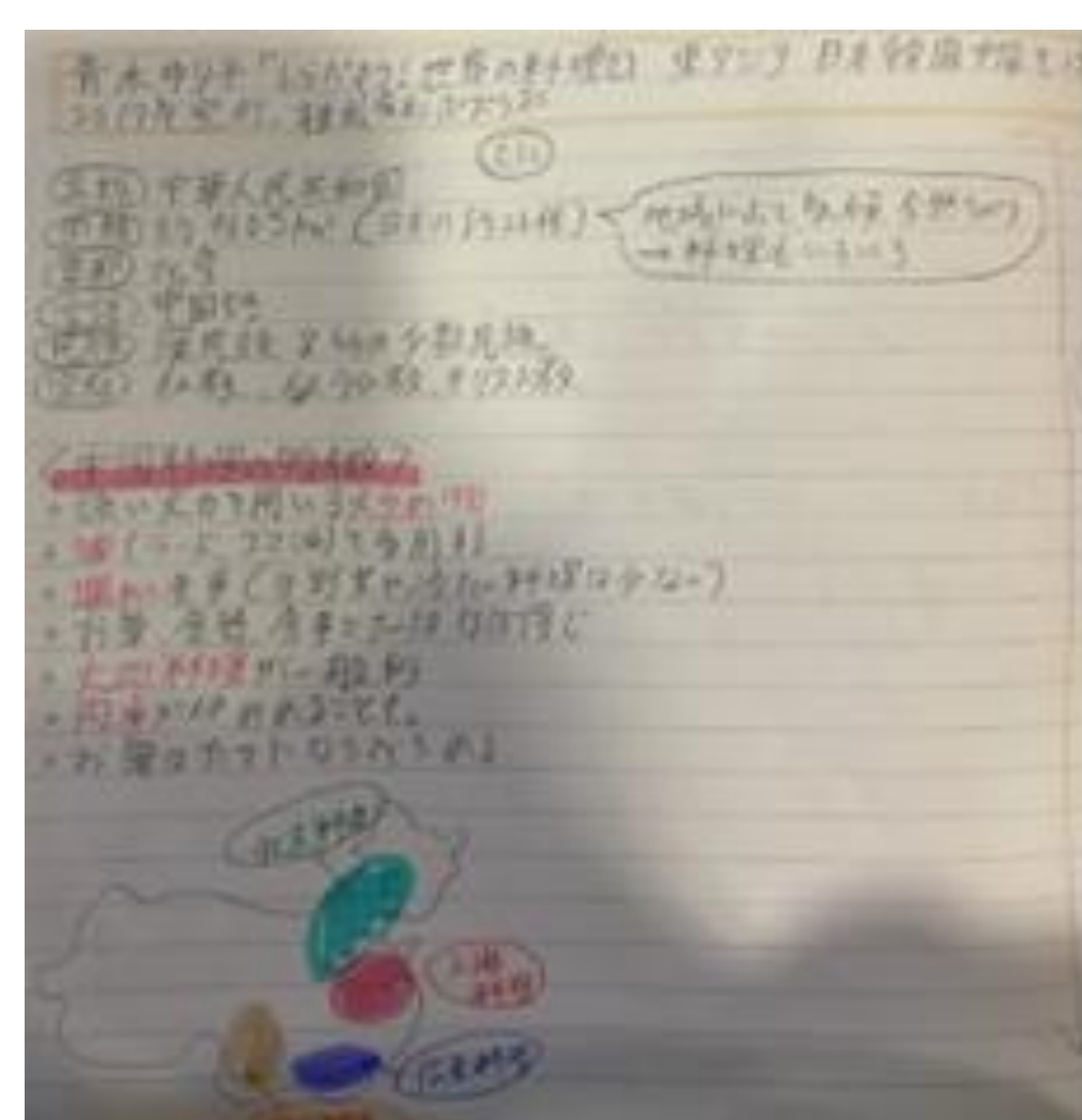
①情報を求め、そして楽しむために多様な資料を読む。

→インターネットだけでなく、図書館や中国文化センターの資料を利用して情報を収集した。特に観光情報に関しては中国文化センターから得た冊子を基にしたため、信頼性の高い情報を得ることができた。多様なメディアを使用することで、質の高い情報を調査することができる。

②参考文献への言及、引用を行い、必要であれば脚注を使用する。広く認められている書式に従って参考文献目録を作成する。引用・参考文献を正しく記載することが苦手だったが、今回情報や写真の出典を全て正しく記載することができた。出典の明記は著者に敬意を示すことを表すため非常に重要。

ATLスキルとの関係性①

情報リテラシースキル



①情報を論理的にまとめ、描写する

→私は調べた情報を直接冊子に掲載するのではなく、一度ジャーナルにメモして情報を整理するステップを踏んだ。図書館や中国文化センターで借りてきた本や冊子、WEBサイトなどを読み漁り、冊子に使えるような情報や重要な情報は参考文献とともにジャーナルにメモしていた。→冊子のノートにきれいに整理された情報から使う情報を選定することができたので、より洗練された情報を冊子に載せることができた。

PPを受けて、これからの展望

①計画を立て進捗状況を振り返りながら進める力

週一回のppの授業、スーパーバイザーの存在のおかげ
⇒ToDo listを作る、逆算して計画を立てる(5W1H)、適宜計画を見直すことが必要だと学んだ。

②失敗を恐れず、自分を信じて挑戦する力

中国文化センターや中国物産展など初めての場所に訪問。「中国が好き」という気持ちに支えられ忍耐強く挑戦できた。
⇒達成感を体感し、任意参加のイベントにもたくさん参加するようになった。

③中国の文化や人々、日本とのつながりをより深く理解

これまでは中国ドラマの知識のみだったが、中国の食文化や観光、歴史など多角的に理解できた。
⇒中国がもっと好きになった。日本と中国の関係を改善したいと改めて思った。

④周りの人に頼りすぎず、自分1人で1から進める経験

去年のISSチャレンジで友人と参加し、大失敗した。(興味のないテーマだった上、友達に頼りすぎた)
⇒今回は最初から最後まで一人で取り組む課題。最も興味のあるテーマで取り組めた。不安も大きかったが自分の力や可能性に自信がわいた。

今後行っていきたいこと

- ①身近な内容を加える
- ②イベントに参加し、中国人とのコミュニケーションを増やす
- ③中国人と日本人をつなげる活動を企画

三本の柱との関係性

①中国文化センターや中国の火鍋店、中国物産展などに訪れたことで、中国人と関わる機会があった。自分が好きな中国ドラマの知識や中国語が役に立ち、より深く濃い会話が出来た。
⇒相手の文化への理解は、相手に対する興味や好意を示せる。相手に親しみを持ってもらえる。
⇒相手が不快な思いをする行為を避け、お互いが快く過ごし、親密で信頼し合える関係を築くために必要。

②カナダに短期留学に行った際、出会った外国人の友人らに日本語や日本文化について聞かれた。私自身知らない部分もたくさんあり、満足に説明できなかった。
⇒自国の文化への理解は、相手に自分を理解してもらい、良質なコミュニケーションをとるために必要。
⇒また自分が他者の文化と比較する軸となるため、相手の文化を尊重するためにも必要。

国際理解「多文化を持つ人々と関わり理解し合うには、相手と自分の文化の理解が必要」

パンフレットで衣服ロスについての関心を高め、古着の利用を発信する！（PP）

PPのタイトル

パンフレットで衣服ロスについての関心を高め、古着の利用を発信する！

Raise awareness of clothing loss through a pamphlet and promote the use of second-hand clothing

PPの学習目標

衣服ロスと古着の利用を正しく発信する

Spread information about clothing waste and the use of second-hand clothing properly.

なぜこのテーマで行ったのか

- 「衣服ロス」というトピックを選択した理由
 - 衣服ロスについて知る機会があり、そこから興味を持った（※衣服ロスとは新品だったり、まだ着られる状態だが捨てられる衣服を指す。）
 - 環境汚染や資源の問題にも関わっていて、私にとって大きな課題だと感じ、多くの人に知ってもらいたいと思った。
- 「パンフレットで発信する」ことにした理由
 - 「人に何かを伝える」ことを多く経験してきた→それを活かしたいと思った。
 - パンフレットが人々が手に取りやすい媒体である。

三本の柱との関係性

国際理解：

PPを始めるまで、「衣服ロス」についての理解が乏しかった⇒「衣服ロス」の原因や引き起こす諸課題について知識を得ることができた背景にある現代人の大量生産・大量消費についても改めて考え直す機会となり、何かを生産するプロセスにおいて利益と環境保護のバランスを維持することの難しさも知ることができた。

人間理解：

衣服ロスの解決方法について、複数の立場の視点からまとめることができ、社会の在り方を考察することができた。また、成果物の制作過程で、他人からアドバイスをもらうことで、自分がどういった情報を切り取っているか、何を伝えようとしているのか客観的に見ることができて、自己理解へとつながったと感じた。

ATLスキルとの関係性①

メディアリテラシースキル

文献	内容
仲村和代「大量消費社会「アパレル」の矛盾を突き詰める」光文社 2019年	アパレルブランドが在庫を減らすのは、ブランド価値を守るため
日本経済新聞「環境省 令和2年度 ファッションと環境に関する調査結果」	家庭から手放されたと予想される衣服の量の内、リサイクルされるのは15%のみ
環境省「サステナブルファッション」	服1枚を生産するのに二酸化炭素は約25.5kg排出されて、水約2300ℓ使用されている。日本人が年間購入する衣服は約18枚、手放す(捨てるも含む)のは約15枚、着られない服は約35枚ある。日本の衣服のリサイクル率は15%
サステナブルスイッチ「15億着もの売れ残り」	衣服ロスに対して私たちができることは、長く衣服を着るコト、リユースする、作られ方や必要かどうかを検討してから買うなどがある
サステナブルスイッチ「15億着もの売れ残り」	服1枚を生産するのに二酸化炭素は約25.5kg排出されて、水約2300ℓ使用されている。日本人が年間購入する衣服は約18枚、手放す(捨てるも含む)のは約15枚、着られない服は約35枚ある。日本の衣服のリサイクル率は15%
サステナブルスイッチ「15億着もの売れ残り」	リサイクル率が低い理由はリサイクルできる場がまだ少ないこととリサイクル可能な素材で作られた服が少ないことや消費者がまだまだ意識が低いこと、が考えられる
東洋経済オンライン「日本で「15億着のいふく」が捨てられている真実」	29億着が生産されて、15億着が捨てられている

※文献の内容比較するために作成した表の抜粋

説明：

☆学習目標の「正しく発信する」ことを達成するために…
⇒情報源やその文献で述べられていたことをリストにして、それぞれの文献において記載されていた情報を書き出し、信頼性のあるデータから順に色分けをして、使用する情報を選別した。
PPを通じて、
×情報を取捨選択する→○情報源や複数の文献と比較することで情報の信頼性を判断する
「どういった情報をもとに自分は考えたか」を残したので、自分の主張に信憑性が高まったと感じる。

ATLスキルとの関係性①

批判的思考スキル

説明：

☆成果物の制作の過程で…
⇒記載する内容が伝わるように、イラストや使う色などのデザイン性も改良する必要があった。毎回作業を進めるごとに気になる点や改善するべきところを赤線で囲まれたようなメモやアイデアを書き留めるようにした。
PPを通じて、
×複数の視点からより良いアイデアを出す→○視点を交えてアイデアを評価することができた
制作者として伝えたいことが伝わるか、読み手が実際どう感じるか、この2点を中心にパンフレットに修正を加えた。

ATLスキルとの関係性①

情動スキル

説明：

☆PP全体を通じて…
⇒一番成長したと感じるスキルは情動スキル！
コツコツ作業を続けることやマルチタスクをすることが大の苦手で、膨大な時間を要するPPにおいて、克服するために工夫をした。
PPを通じて、
×感情の自己管理→○自分でモチベーションを整えて作業をするか
タイマーを使って短時間集中したり、やったことを自分で褒めたことで、PPへのやる気を妨げないように自分の感情をどうコントロールするかを考える良い機会となったと感じる。

PPを受けて、これからの展望

- PPを通じて身に付いたスキルは色々！！特に自分の考えやそれに至ったプロセスを可視化・言語化する能力が向上した！
計画が大幅にずれたり、自分の考えが整理できず分からなくなったりという失敗⇒失敗から立て直すときに「どういった経緯・プロセスでその考えに至ったのか」を記録に残して、明確にしていたため、自分の考えの過程を振り返るタイミングが多くあり、「次はこうしよう」と成長を感じることができた
- これから…
- どんなスキルを持ち合わせていて、どんなスキルが足りないのか、客観的に理解できるようになったことを踏まえて、自分の挑戦にリミッターをかけず、様々なことに挑戦したい！
- 報告レポートを書いて、自分の日本語のつたなさに残念→学術的なレベルで自分の考えをまとめて、書けるようになりたい！

持続可能な資格勉強プロセスを構成する (PP)

PPのタイトル

持続可能な資格勉強プロセスを構成する
Creating a sustainable process of studying for certifications

PPの学習目標

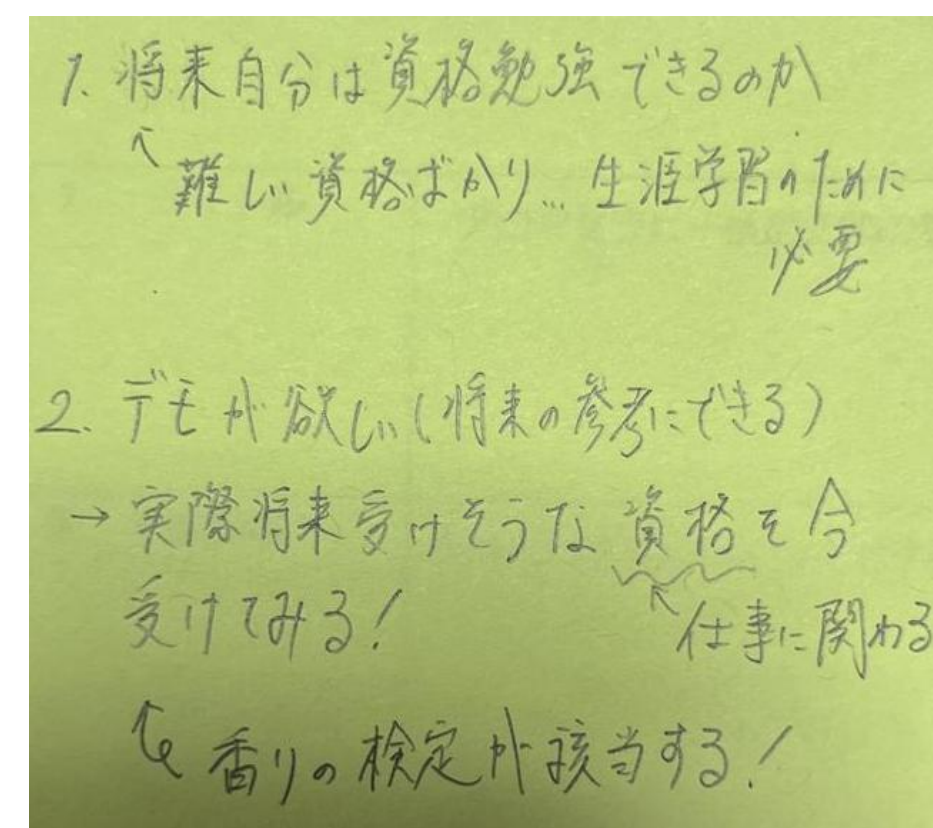
検定取得のための勉強過程をデータ化することで
持続可能な勉強プロセスを構成する

なぜこのテーマで行ったのか

・生涯学習
「将来のための資格取得」は必要不可欠
しかし…勉強プロセスがないまま勉強→挫折や非効率的な結果を招く
→「将来の参考」にできる (= 持続可能な) 資格勉強プロセスを構成する。

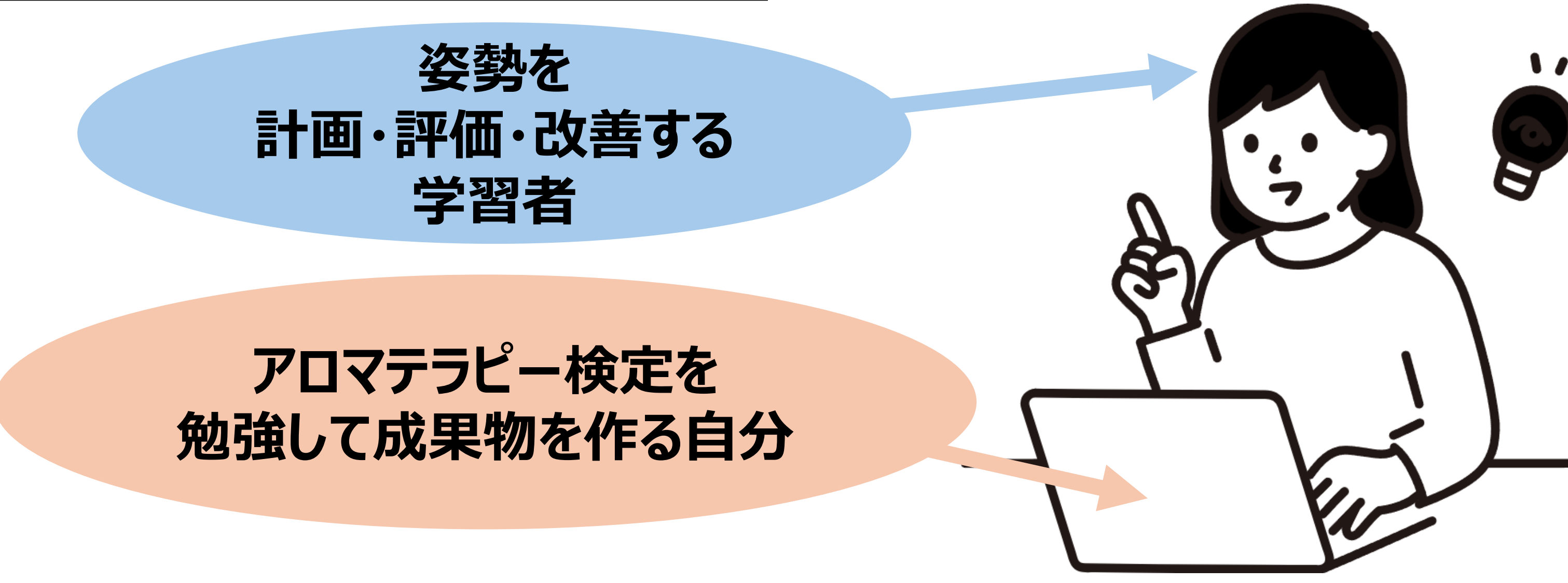
・「資格勉強プロセスを構成する」の達成のために (成果物)
日記 (記録) : 「アロマテラピー検定」の2か月間の勉強過程→分析の材料
リーフレット (創作) : 分析を通して構成した勉強プロセス →「プロセス」の可視化

学習目標の決定までの分析メモ (左)



成果物：リーフレット (真ん中)、日記 (右)

三本の柱との関係性



〈PPの特徴〉

- ・「成功か失敗か」ではなく「過程の分析」
- ・十分な時間
- ・学習者としての成長

→自分を客観的に (学習者として) 分析
・ATLスキルとの関係②
→抽象的な思考の具体化・言語化
・ATLスキルとの関係①、③

人間理解

自分に焦点を当てた

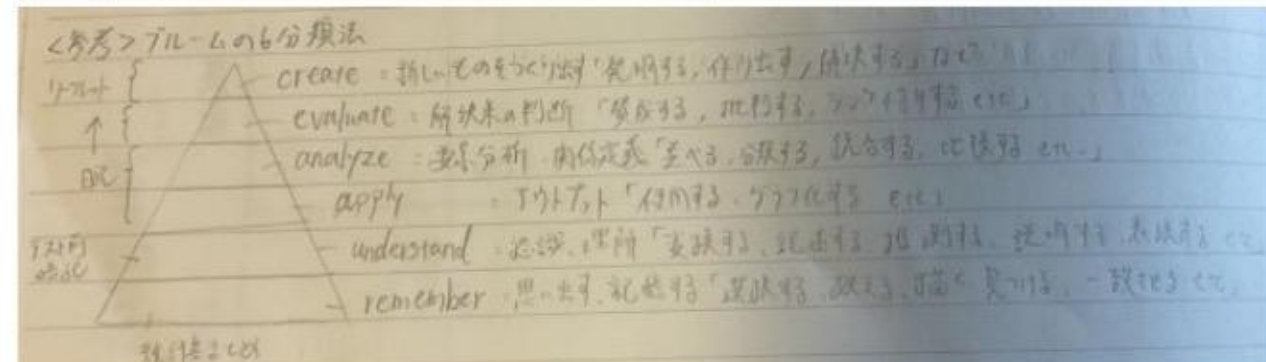
ATLスキルとの関係性①

管理・調整スキル

複雑な情報を整理するために適切な方法を用いる

ブルームの教育目標分類 (原簿は、表3-1: 教育目標のタキソミーの全体的構成)

6.0 評価	Evaluation	個性化	Characterization	自然化	Naturalization
5.0 統合	Synthesis	個性化	Organization	自然化	Articulation
4.0 分析	Analysis	個性化	Valuing	個性化	Precision
3.0 応用	Application	個性化	Responding	巧み化	Manipulation
2.0 理解	Comprehension	受け入れ	Receiving	模倣	Imitation
1.0 知識	Knowledge	受け入れ	Receiving	模倣	Imitation



私は成果物の形態を考える際に、それがどれだけ学習目標の達成に有効なのかを測るために、「ブルームのタキソミー」※という考え方をを用いた。例えば日記は「その日の学習を記憶する」という点で『知識』勉強法を「説明する」「表現する」という点で『理解』データをグラフ化するという点で『応用』の3段階に当てはまるというように、期待できる効果を具体的に整理することができた。

※教育目標を「知識」「理解」「応用」「分析」「統合」「評価」の六段階に分ける分類法

ATLスキルとの関係性②

転移スキル

なじみのない状況においてスキルや知識を応用する

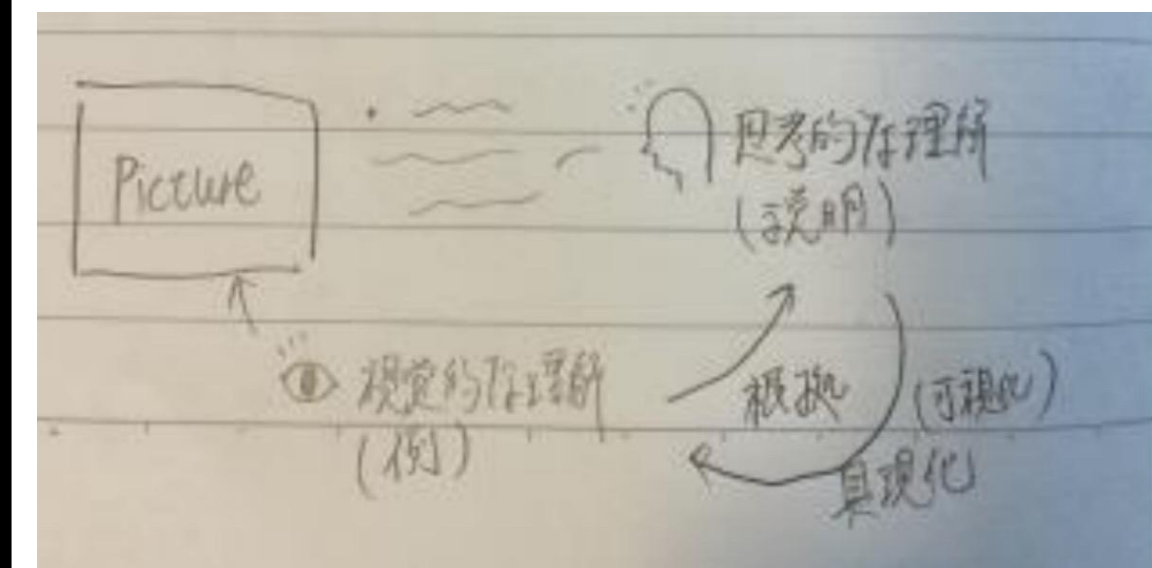
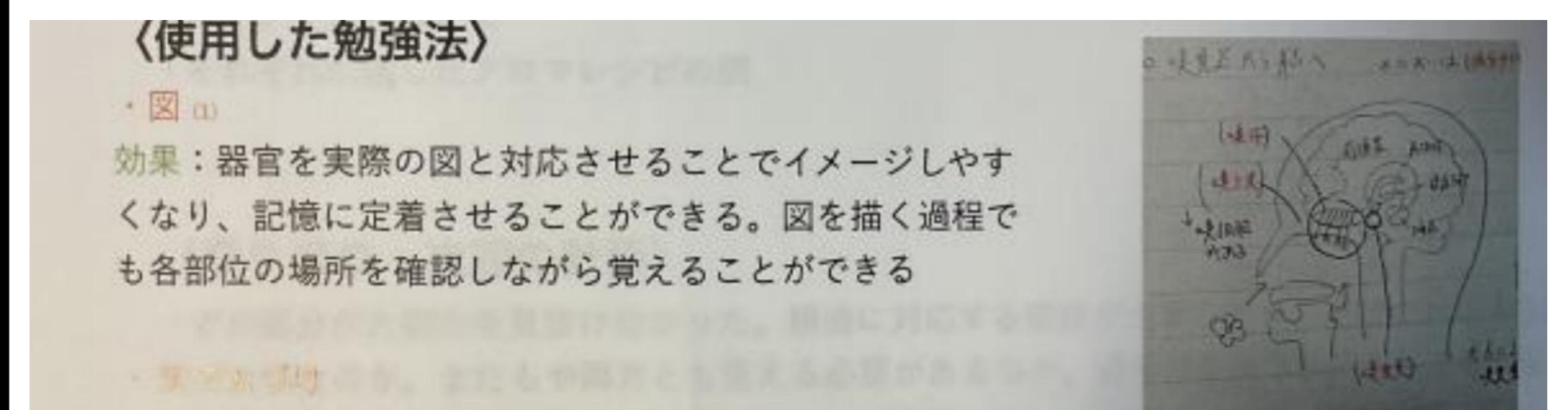
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
13	14	15	16	17		

私は成果物である日記の制作過程で計画に沿って作業できないという問題に直面したため、計画の立て方を改善した。そもそも私は計画に沿って作業することになじみがなく、まずは計画とずれが生じる理由を分析した。すると、一日ごとの計画は自分との相性が悪いことが原因だと突き止め、過去に通っていた習い事の出席システムの知識を利用して一週間ごとに計画を立てるようにした。その結果、計画的な学習を継続できるようになり、問題解決へつながった。

ATLスキルとの関係性③

創造的思考スキル

思考の可視化の方法やテクニックを実践する



私は成果物である日記に資格勉強で用いた勉強法を記載する際に、勉強法という抽象的なものを可視化するために文字と写真の相互効果を活用した。具体的には、文字での説明の具体例として写真を使用し、視覚的に最もわかりやすい写真という手段と論理的に最もわかりやすい文字という手段の組み合わせによる思考の可視化に努めた。可視化によって勉強法の一貫性が増し、記録としての価値を高めることでその後の分析に大いに役立たせることができた。

PPを受けて、これからの展望

〈PPの反省〉

作業記録の怠り

無計画な行動

レポート執筆の障壁

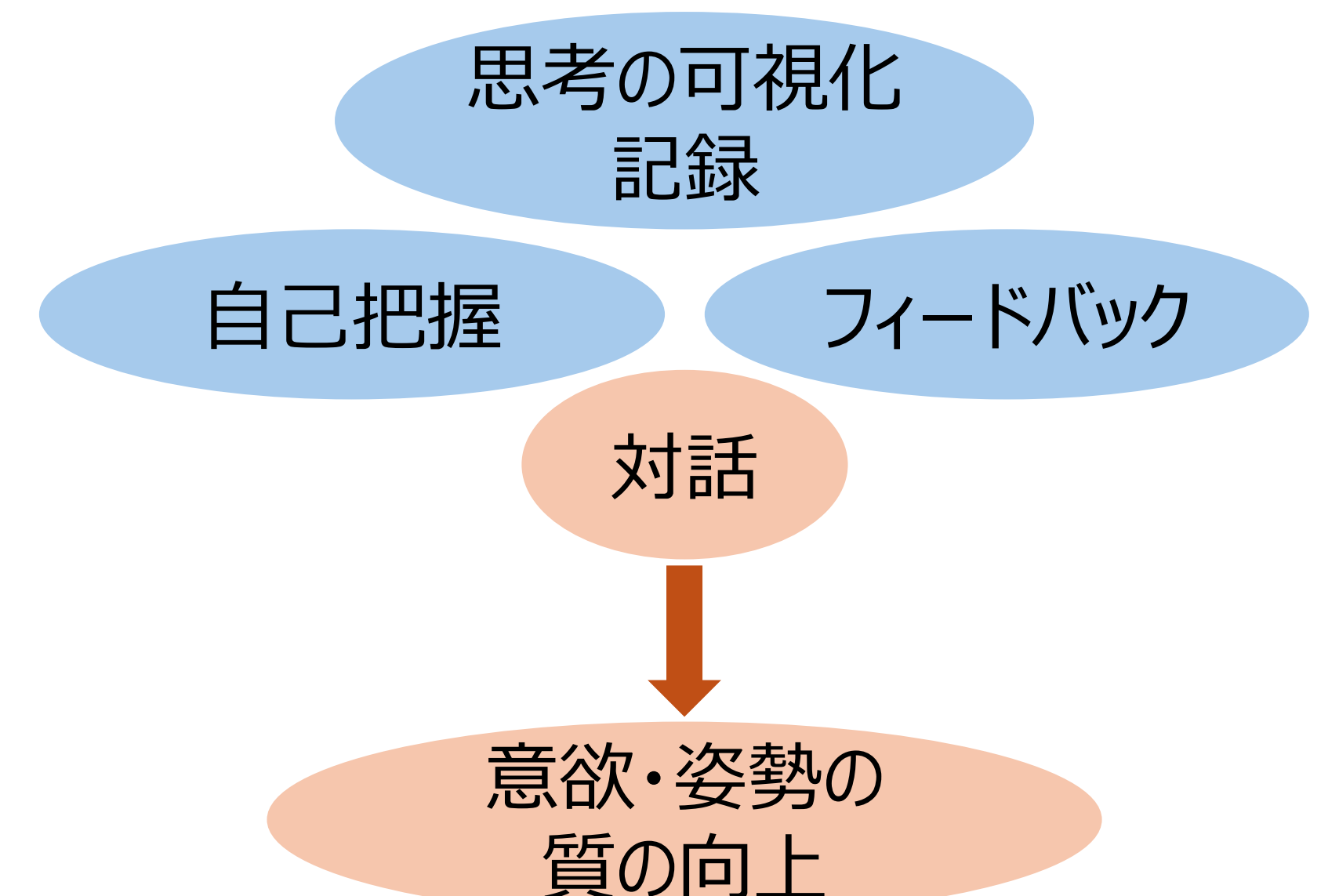
「記録」の大切さ

生活：他教科での成績記録、スケジュールの可視化
課題研究：学習者の視点からのコメントを課題研究で活かす

〈生涯学習の観点から〉

・学習と向き合おうとする意欲・姿勢の大切さ
→頻りに自分と「対話」することでキープする
→学習者としての「自己把握」と「フィードバック」

・問題解決のための糸口を増やす
→思考の可視化
→「記録」によるインプット



Holding a Mathematics Class (PP)

PPのタイトル

Holding a mathematics class
数学の授業を開催する

PPの学習目標

Gaining the ability to teach mathematics
数学を教える力をつける



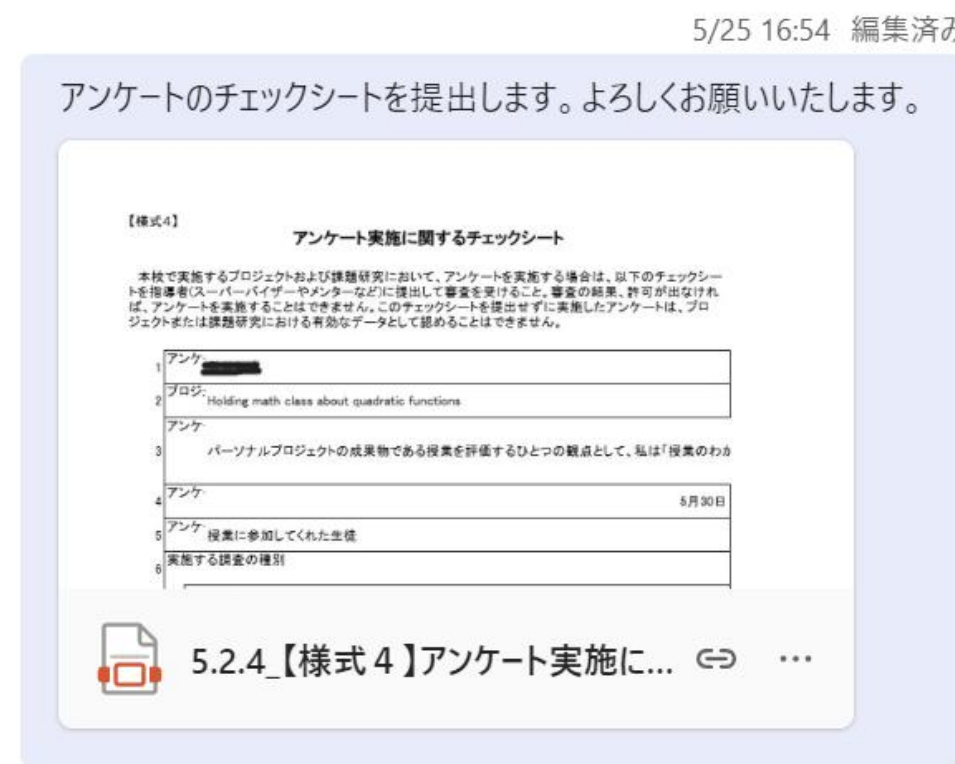
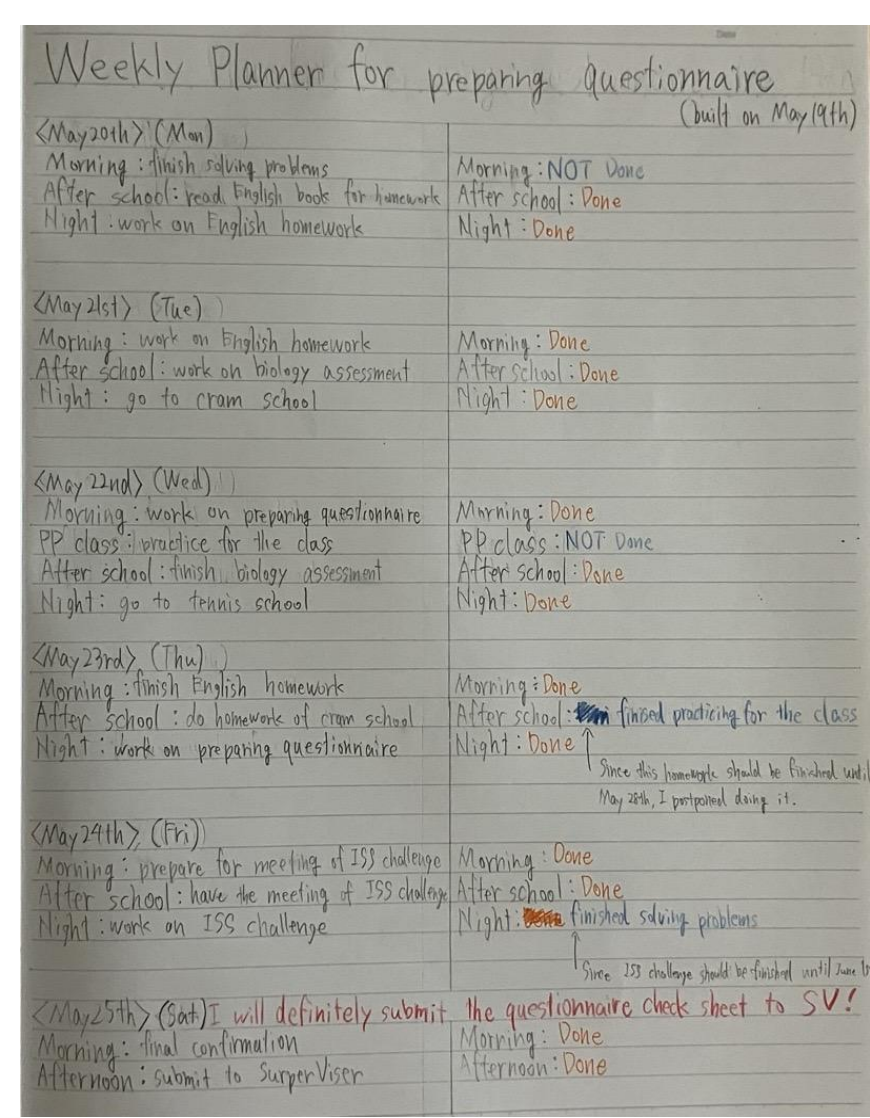
なぜこのテーマで行ったのか

Personal Projectをこのテーマで行おうと決めた理由は、単純に数学を教えることに対する強い興味を持っていたため。私に数学を教えることの興味を持たせたことは、大きく2つある。1つめは、本校で行われている数学教育だ。本校の数学の探究的な授業は、現実世界の事柄を数学的なモデル(式、表、図、グラフなど)に落とし込むところから始まる。本校に入学する前は数学とはテストのための科目という認識であったが、本校に入学してからその印象はガラッと変わり、数学とは現実世界の問題を解決するための有効な手法なのだを知ってから、数学に強い興味を持つようになった。また、授業内でお互いの考え方を共有する機会も多くあり、数学を通じた双方向な交流に楽しさを感じたこともきっかけの1つである。2つめは、妹に何度か数学の問題の解き方を質問されるが、そのたび説明しても妹にうまく理解してもらえず、歯がゆい思いをしたことだ。これらの理由から、PPでも数学を通しての交流を行いたい、また数学を教える力をつけたいと考えたため、このテーマに設定した。

ATLスキルとの関係性①

管理・調整スキル

課題のために週間予定表をつけ、用いる



説明:

5/30に行う授業についてフィードバックをもらうためには、アンケートを授業後に実施する必要があった。そのためにはアンケート実施の様式を提出しなければならなかった。

⇒5/25に様式をなんとしても様式を提出することを見据え、その一週間にやらなければならないことをノートに書きだしたうえで一日のうち自由に使える「朝」、「放課後」、「夜」にタスクを割り振って記入する週間予定表を作成した。

この週間予定表を作成することによりPPに関連したものも含めたタスクを一步步つ終わらせていき、最終的に予定通り5/25にアンケートを実施するための様式を提出することができた。



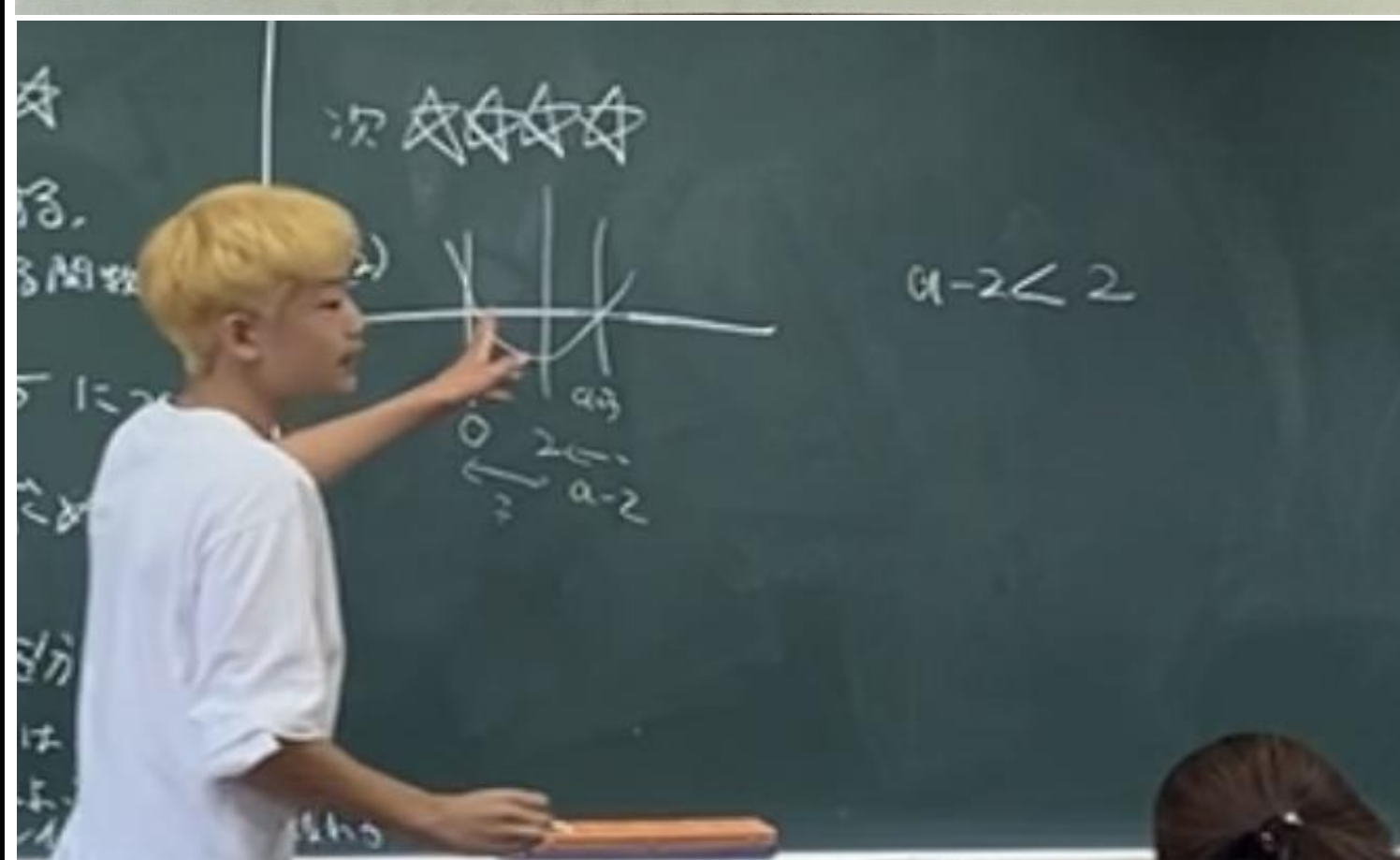
ATLスキルとの関係性②

コミュニケーションスキル

正確に、そして簡潔に言い換える

基本問題 81 二次関数の最大・最小(3)

a は正の定数とする。 $0 \leq x \leq a$ における関数 $f(x) = x^2 - 4x + 5$ について、次の問いに答えよ。
(1) 最小値を求めよ。 (2) 最大値を求めよ。



説明:

上記の問題の(2)の解き方を説明する際、「(定義)区間の中央」という言葉を何度か用いた。二次関数の軸が区間の中央の右にあるか左にあるかで場合分けするため。しかし、文字である a によって定められた定義区間(定義域)の中央という言葉は一人の生徒がうまく理解できなかった。
⇒生徒が理解しやすいよう自分なりに言い換えをした。

「軸が区間の中央より右」⇔「軸から区間の左端までの距離が右端までの距離より長い」

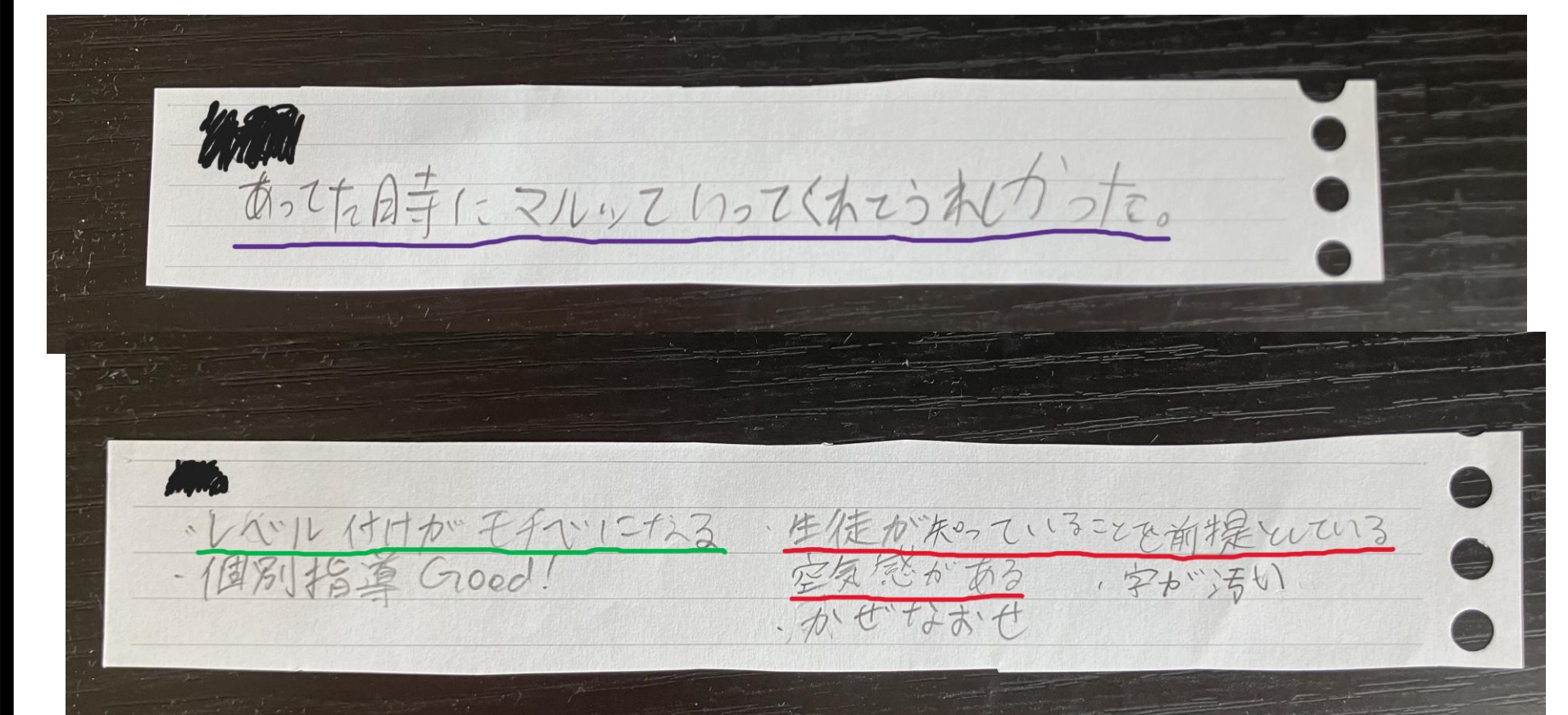
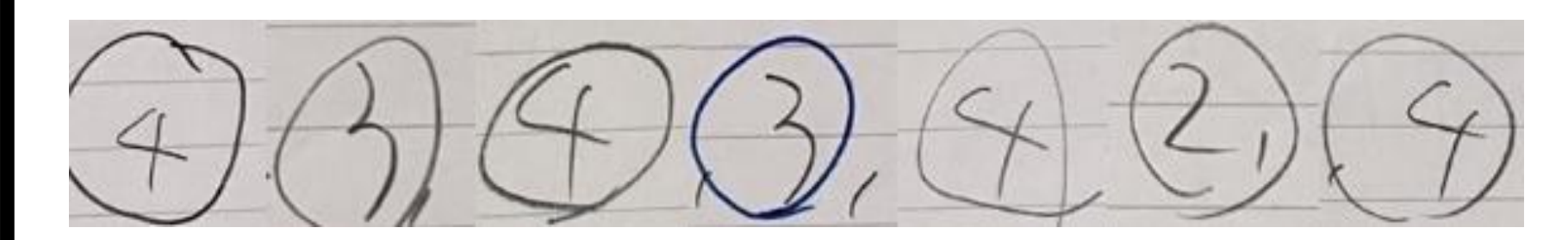
「軸が区間の中央より左」⇔「軸から区間の右端までの距離が左端までの距離より長い」

この正確かつ簡潔な言い換えにより、授業内での「解き方の説明」というコミュニケーションを円滑に行うことができた。

ATLスキルとの関係性③

コミュニケーションスキル

意味のあるフィードバックを与え、受け取る



説明:

5/30の授業後、「授業のわかりやすさを1~4で評価してください」と書かれた紙を配るとともに、その紙の裏面に授業について感じたことを自由に記述してもらった。

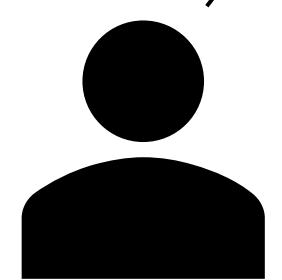
・回答してくれた7人の生徒の最初の質問に対する回答の平均は約3.42と高く、自分が準備期間や授業内で行った工夫が実を結んだのではと感じた。

・自分の教え方に対する客観的かつクリティカルなフィードバックを得ることができた。自分が意図していなかった部分によさを感じられるということは自分にとっても意外な収穫であった。

・「生徒が知っていることを前提としている空気感がある」という意見はまさにその通りであり、学習目標を達成するためにも次回以降修正すべき点だと気づくことができた。

PPを受けて、これからの展望

その問題を解くのに必要である基礎知識は確認せず、いきなり本題の説明に入る傾向がある



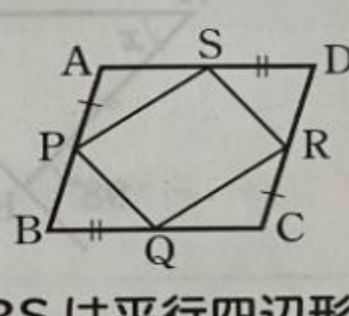
PPを行う以前の私

PPを通して得たフィードバック

フィードバックを受け、妹に実際に問題を教える際も基礎知識を確認することを意識

C チャレンジ

5 右の図のように、 $\square ABCD$ の辺上に、4点 P, Q, R, S を、 $AP=CR, BQ=DS$ となるようにとり、このとき、四角形 $PQRS$ は平行四辺形であることを、下の文に続けて証明しなさい。
〔証明〕 $\triangle APS$ と $\triangle CRQ$ で、



具体的には..

平行四辺形である証明

平行四辺形の成立条件

三角形の合同条件

土台となる知識の積み重ね

今後も..

- ・場合の数・確率 (特に条件付き確率)
- ・図形と計量
- ・数列

⇒基礎知識を確認しながら進め、できるだけ多くの生徒にとって学びのある授業を目指す

三本柱(人間理解, 国際理解, 理数探究)との関係性

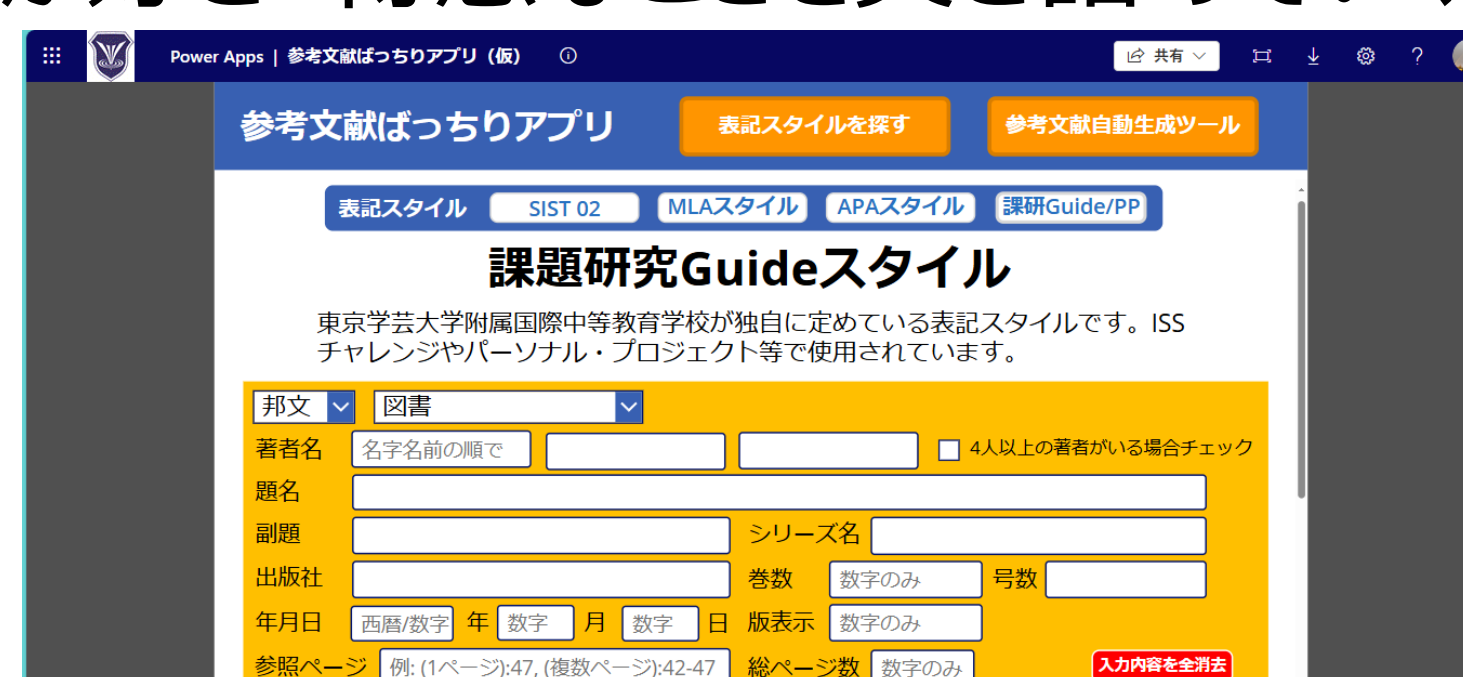
<理数探究>

- ・数学を教える際のよりよい表現の仕方
- ・問題に対する理解のプロセス
- ・生徒のミスから分析する、解答を作成する際に気を付けるべきポイント

→単元「二次関数の最大値・最小値」における「よりよい教え方」について探究することができた

<人間理解>

- ・PPでは、自分で自由にテーマを決めて活動することができるため、各々が好き・得意なことを突き詰めていくことができる。



→それらを活かしたお互いの助け合い・社会への貢献

Creating a Blog on Teen Mental Health (PP)

PPのタイトル

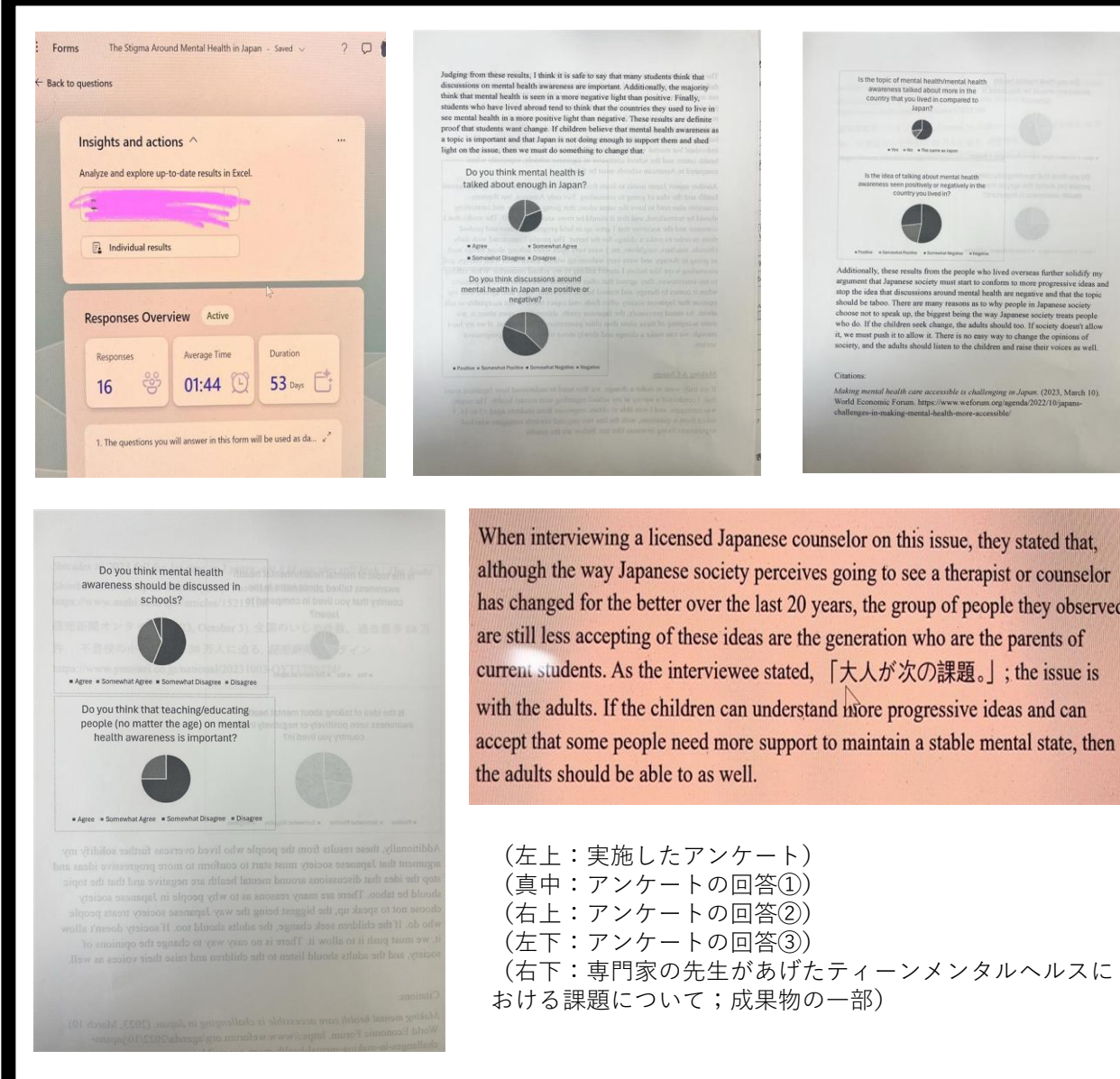
Creating a Blog on Teen Mental Health
日本における中高生のメンタルヘルスについてのブログを作成する

PPの学習目標

To investigate the stigma behind therapy and teen mental health in Japan and raise awareness on the topic
日本におけるセラピーと中高生のメンタルヘルスにあるスティグマを調査し、テーマについての認識を高める。

なぜこのテーマで行ったのか

個人的な経験をもとにしたものを作りたいと思い、このテーマを設定した。精神衛生、セラピー、カウンセリングに焦点を当てたのは、海外に住んでいたときに、**自分の問題でセラピーやカウンセリングを受けた経験がたくさんあるから**だ。当初は、どこの国もこのような話題についてとてもオープンだと思っていたが、日本に帰ってきて、日本社会ではこれらの話題が多く場面によってタブー視されていることを知り、なぜそうなのだろうと疑問に思った。私はメンタルヘルスのトピックにとっても興味があり、日本の中高生の自殺やいじめの統計を見て強い衝撃を受けた。以前、人種差別を受けた経験や、それが自分の精神状態にどのような影響を与えたかについて、エッセイを書いたりクラスでプレゼンテーションをしたことがあったが、自分の経験を深く掘り下げ、**このテーマについて自分の思考を書き出す作業は自己理解の深長と成長に繋がると考えた**。もともと別のプロジェクトでこの問題に関するウェブサイトを作ろうと考え、中高生のメンタルヘルスについて調べていたが、パーソナルプロジェクトでやりたいこととよく合っていたので、**このトピックについてブログを作成することにした**。



どういう活動を行ったか

PPのテーマであったメンタルヘルスは自分の経験やネットからとった情報だけではあまり信ぴょう性が無いため、**中学校・高校のカウンセラーとして勤めているスペシャリストをインタビュー**し、中高生のメンタルヘルスやウェルビーイングにおける課題や対策について聞いた。インターネットや個人の経験だけから取り入れられる情報も限られているため、日常的にこのトピックと触れ合う回数も最も多い人が相応しいと思い、この専門家に頼んだ。

インタビューで主に着目したのは、日本の現状と私の経験や海外の現状との差、そしてなぜそのような差が生じるのかについてだった。日本社会のものの見方がどの面では遅れていて、その原因の要因となるものは何なのかについて私の意見を先生に語った。それに対して先生により詳しく説明してもらい、自分の知っていることと先生を通して学んだことを合わせて中高生のメンタルヘルスに対する認識を高めるための解決策について話し合った。

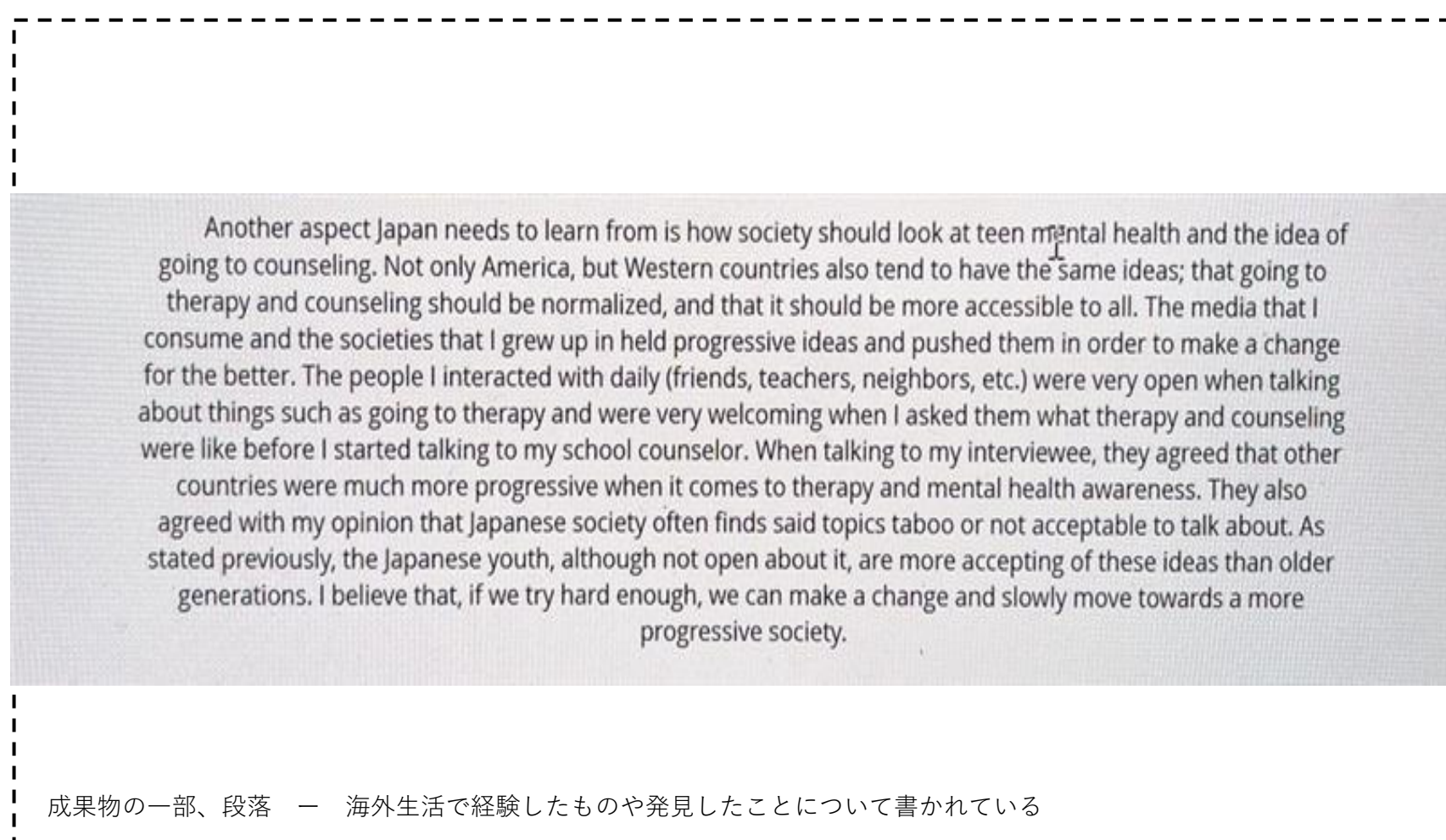
もう一つPPの成果物のために行った活動は**学年の中で英語でPPをやっている人にアンケートに回答してもらった**。時期の関係でその中でもまたごく一部の人にしか回答してもらえなかったが、日本のティーンエイジャーがどのような意見をもっているのかについてデータを集めることができた。

アンケートの内容としては、日本で生活してメンタルヘルスについてどのような意見や考えをもっているのか、世間はどのような意見をもっていると感じるのか、社会としての対策の十分や不十分さ、そして海外生活をしたことがある人には海外で住んでいた国の(中高生に限らず)メンタルヘルスやウェルビーイングの認識がどれくらい高いと見たか・感じられたかについて回答してもらった。

専門家だけではなくトピックの対象となる中高生から直接意見や考えを聞くことができたため、より成果物の根拠が増え、PP全体の信ぴょう性がかなり上がったと思う。また、多様なデータを取り入れることができたため、様々な視点でこのトピックについて理解を深められたと感じた。

ATLスキルとの関係性①

転移スキル



成果物の一部、段落 — 海外生活で経験したものと発見したことについて書かれている

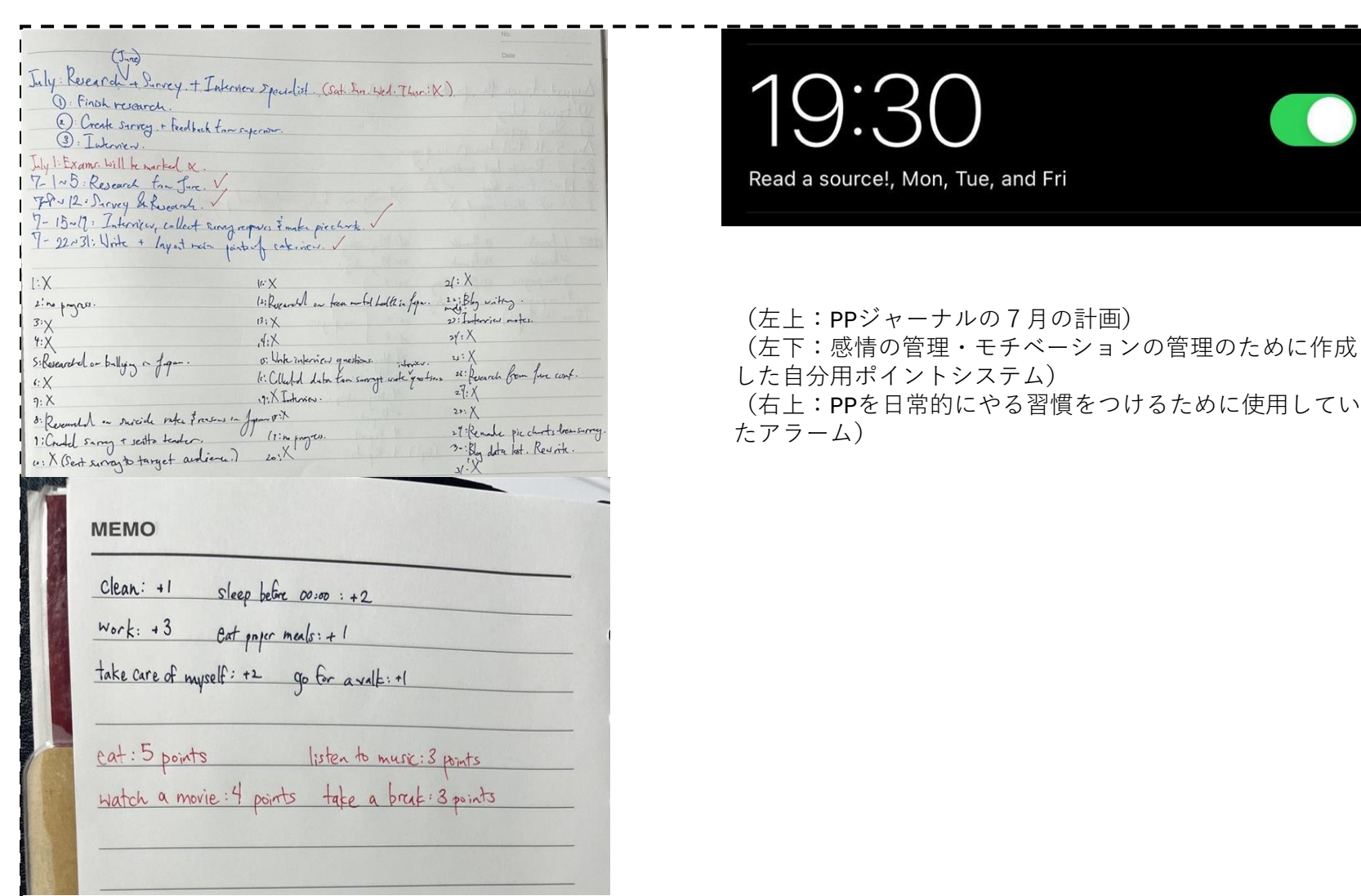
自身の転移スキルの不足を認識し、それを改善するための取り組みについて

- さまざまな情報源からの情報を関連付けることが得意ではなかったため、文章の質が向上しなかったと感じた
- 内容のバリエーションを成功基準に加え、自身を成長させる方法として新しい情報を探求することを決意した
- 異なるメディアや情報源からの情報を収集することで、アンケートとブログを結びつける方法を理解し、特に個人的な体験を通じて転移スキルが向上したと感じる
- 個人的な体験を文章に反映させるために、エビデンスとの結びつけ方を模索したが、日本社会についての調査には苦労した
- 個人的な体験と日本の社会的課題を比較し、特に欧米諸国では一般的な話題が日本ではあまり受け入れられていない点に焦点を当てた

➡このアプローチは、無関係に見えるトピックを結びつけるだけでなく、日本社会が改善すべき点についても考えられた

ATLスキルとの関係性②

管理調整スキル



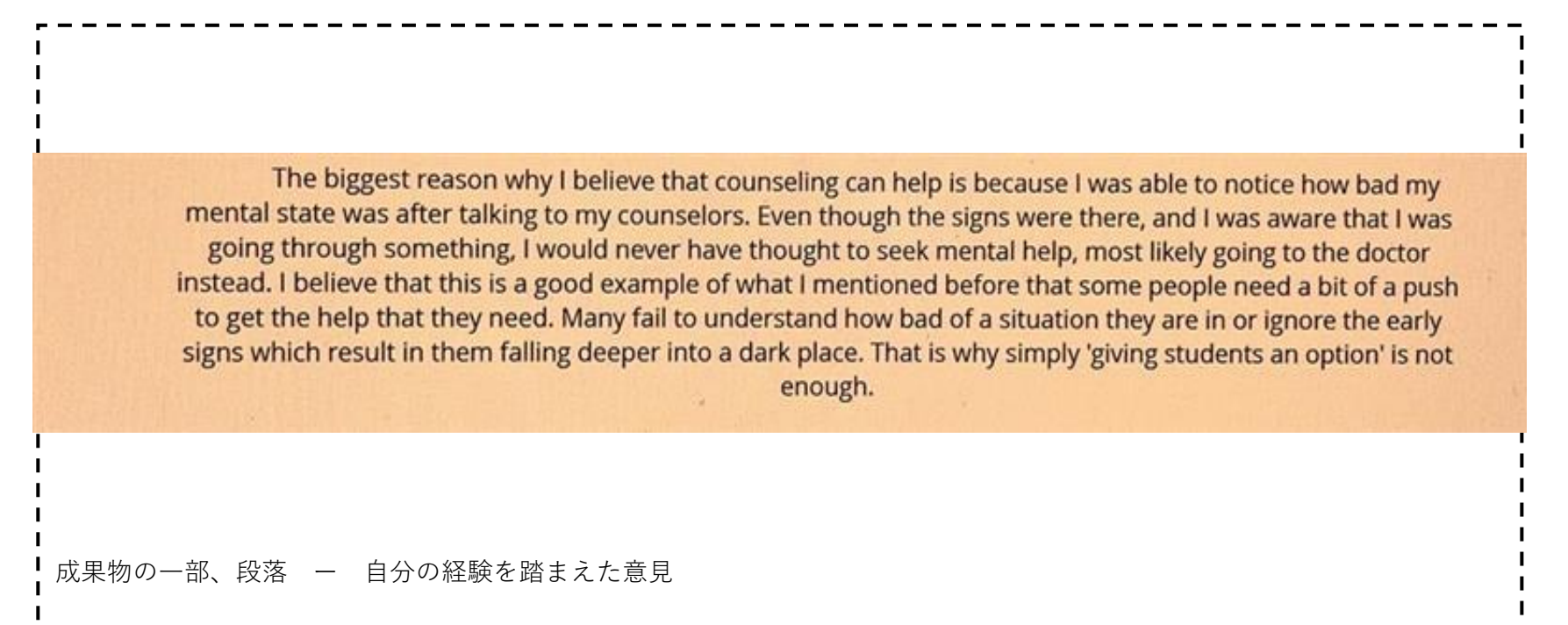
研究を通じて、管理調整の成長を実感した

- メンタルヘルスやカウンセリングといったデリケートなトピックにおいて、成果物の質を維持するために感情をコントロールすることが重要であると認識した
- 個人的な経験を活用し、信ぴょう性のある意見を提供するためには、証拠や情報源に感情を混ぜないことが必要であると考えた
- 作品を数日おきに見直し、情報提供部分が感情的になっていないか確認することを心掛けた
- また、個人的な体験についても、感情的で説得力のある表現を意識した
- 自分の性格上、感情に流されやすく、それが仕事の質やプロジェクトの進行に影響を与えることを理解した
- ストレスを避けるために自分に甘くなり、早々にあきらめることが多いと感じている
- 個人プロジェクトを完遂するためには、自分の傾向を改善する必要があると考え、作業へのモチベーションを高めるためにポイントシステムを導入することにした

➡怠惰を克服し、時間を効率よく活用して作業を進めることができた

ATLスキルとの関係性③

振り返りスキル



成果物の一部、段落 — 自分の経験を踏まえた意見

この成果物を作ることで、自分自身の経験を振り返る力を得た

- このプロジェクトを始める前は、これらの記憶は自分が経験したことを思い出させるものにすぎなかった
- PPを作成し始めたことで、メンタルヘルスに対する意識の重要性を理解することができた
- なぜこのトピックについてパーソナルプロジェクトを立ち上げようと思ったのかについて理解できた
- 自分の考え、アイデア、行動を振り返ることで、個人的な体験について書くときに感情的にならずに書けた

➡自分の経験を含むからこそバイアスがかかる可能性が高いが、自分が経験したことを客観的に見て、それが他国の見方や日本の見方の間にどのような差があるのかについて論理的に述べる力を得た

PPを受けて、これからの展望

私は、このPPで新たな**情報の取り入れ方や物事の考え方の力**を得ることができたと思う。何かについて調べてと言われるとき、特に中高生は基本的にネットや本を使用して情報を取り入れ、それに基づいたものを書く。しかし、PPでは自分しか作れないもの、自分から何かを作らなくてはならないということで、自分でアンケートを実施したり、専門家をインタビューすることもできた。ネットの情報だけではなく、直接そのフィールドで働いているスペシャリストに協力してもらったり、ターゲットグループにアンケートに回答してもらったりなど、事実を伝えたいなら一番信ぴょう性のあるデータを自ら調査して作成する力を得ることができた。

また、このPPを通して友達・先生方・専門家との**コミュニケーションの大切さ**を感じた。計画の失敗も多く、自分の力ではとてもできない規模のものなどもあった。しかし、スパーバイザーやクラスメイトからのサポートのおかげで自らアンケートを企画して実施したり、専門家とも話すチャンスを得ることができた。

もう一つ得られた力は**主体的に自分の気になることについて探求する力**だと思う。自分が疑問に思うことや気になることについて積極的にリサーチをしたりそれを通して自分の意見や考えが生まれる。PPをやって自分の長所と短所を知ることができ、ATLスキルをのびせたことで次にやるプロジェクトでどのようなスキルを成長させたいかなどについて理解することができたから、このような力は5・6年の課題研究やISSチャレンジに向けての良い勉強であると思う。

三本の柱との関係性

人間理解: 人間は一人一人違うため、考え方や意見も異なる。PPのために行った活動やリサーチを通して人間の精神や心理について理解することができた。なぜメンタルヘルスについて考えることが大事なのか、そしてなぜ中高生のメンタルヘルスが認識を高めるべきトピックなのかについて理解することで、**人間の感情や精神についてより深く考えたり意見をもつことができた**。

国際理解: PPを通して、自分の経験に限らず他国の文化や社会について学ぶことができ、メンタルヘルスというトピックにおいてどのような見方や意見を各国は持っているのかについて学ぶことができた。これができなことで、異文化についてより深く理解することができ、日本と海外の文化や世間の意見を比較することでより日本の現状について理解することができる。また、**なぜ他国ではトピックの取り扱い方が違うのかなど、原因の要因について深く考える機会にもなった**。

Proposing a Volunteer Project at School (PP)

PPのタイトル

Proposing a volunteer project at school
学校でボランティア活動を提案する

PPの学習目標

Learning how to participate and make society better
より良い社会を構築していくために必要なチカラを学ぶ

どういう活動を行ったか

PPでは、ボランティア活動を個人で企画立案し、実行することを目標に行っていた。試行錯誤を経て、「車椅子利用者の学校 (TGUISS) での難しさを見つけよう! (Think about the difficulties of wheelchair users at our school.)」という活動を行った。英語でPPを進めていたため英語でのボランティアという形で行った。

なぜ、このテーマで行ったかという、**学校というフィールド**という特有なところと、自分が行っている**赤十字での奉仕活動と英語**でのボランティアがあまり日本では盛んではないため行うことにした。そして、赤十字では多くの人への奉仕活動を行っているが、私たちがあまり日々感じない、車椅子利用者について考えることは非常に面白いと思い実行した。そのため、**車椅子を実際に身体を使って乗ってみたり**、想像する難しさ以上のものを参加者は感じていた。そして、実体験として実習生が車椅子の先生で、学校の中で困っているところを感じていたため、私はこの活動は有効だと感じた。

このボランティアは1回で終わらせるつもりだったが、1回目は失敗してしまい、入念に練り直して2回目を行うことにした。2回目では、1回を全て修正して、無事成功を収めることができた。広報の仕方、運営方法、ワークシート、プレゼンテーション、アクティビティなど多くの観点より改善していくことができた。

そして、**自分の中では失敗することの大切さや楽しさ**を知ることができた。もともと、サッカーをしていたりなど知っていたことなどあったが、自分を知る機会としても良い機会になったと思う。



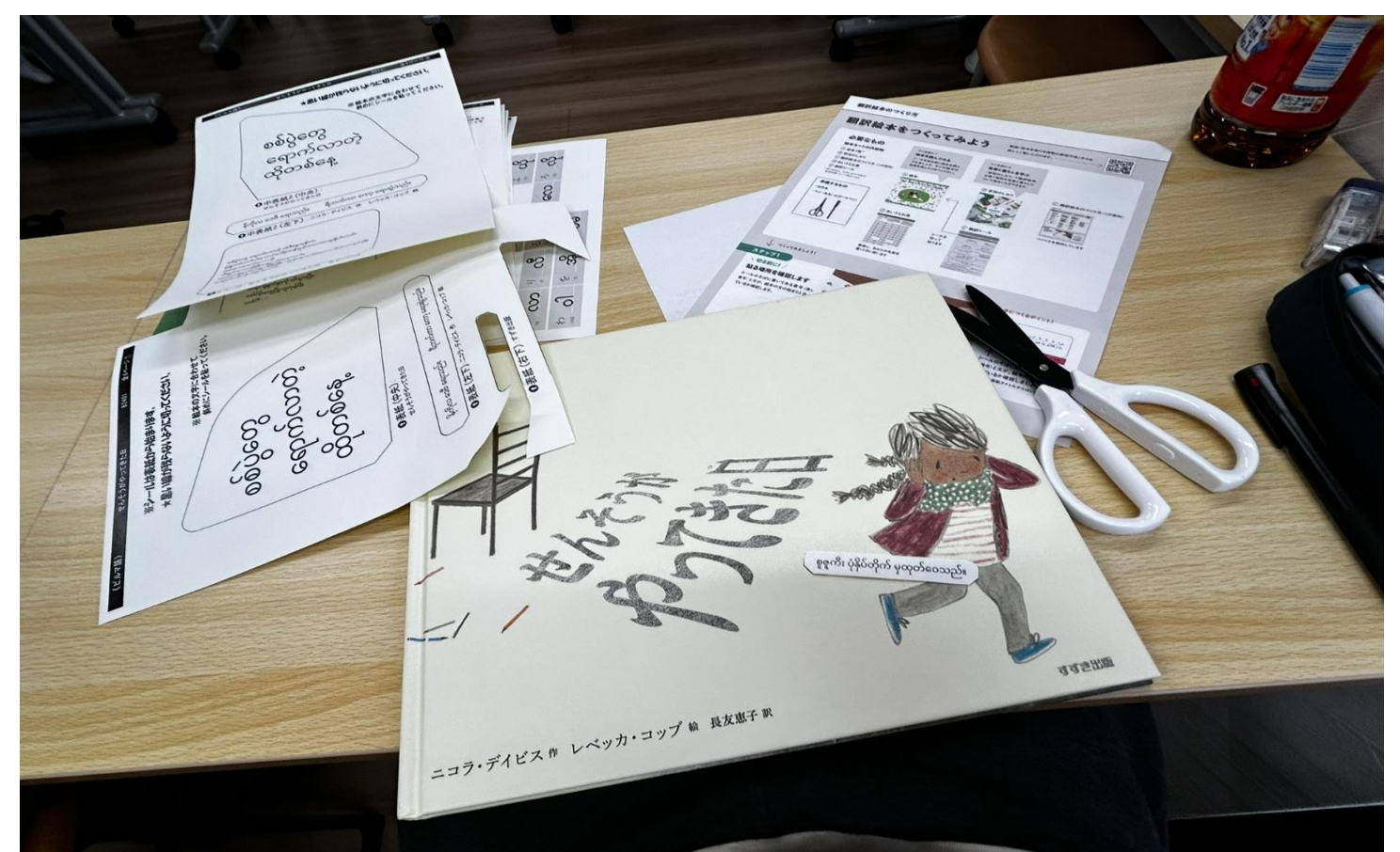
なぜこのテーマで行ったのか

私は、世の中に貢献できる人間になり、平和を構築するために努めたいと思う。大学では、国際関係や政治について学び、その後、この分野で困っている人たちのために働けたらと思っている。さらに今は、教育によって平和を作る方法について研究している (ISSチャレンジ)。**平和を構築するためには多面的に取り組むべきだ**と思う。そのため、自分の行っている活動の延長線上のものとして今回のパーソナルプロジェクトでは、**今までのボランティアは自分がすでにいるものに参加する受け身の姿勢だったのを、自分から企画立案を行い、実践し率先してボランティア活動を行う**ことにした。

中学校で自分が取り組んできた活動を振り返りつつ、自分は何をしていくべきかをしっかりと振り返ることができた。そして、それは更なるATLスキルの伸長にもつながった。それは、多面的に自分の目標へのアプローチをする事により、より強い自分磨きにもつながったと考える。そして、課外活動や将来にやりたいことをさらにどのように実現するかビジョンを明確にすることにつながった。

ATLスキルとの関係性①

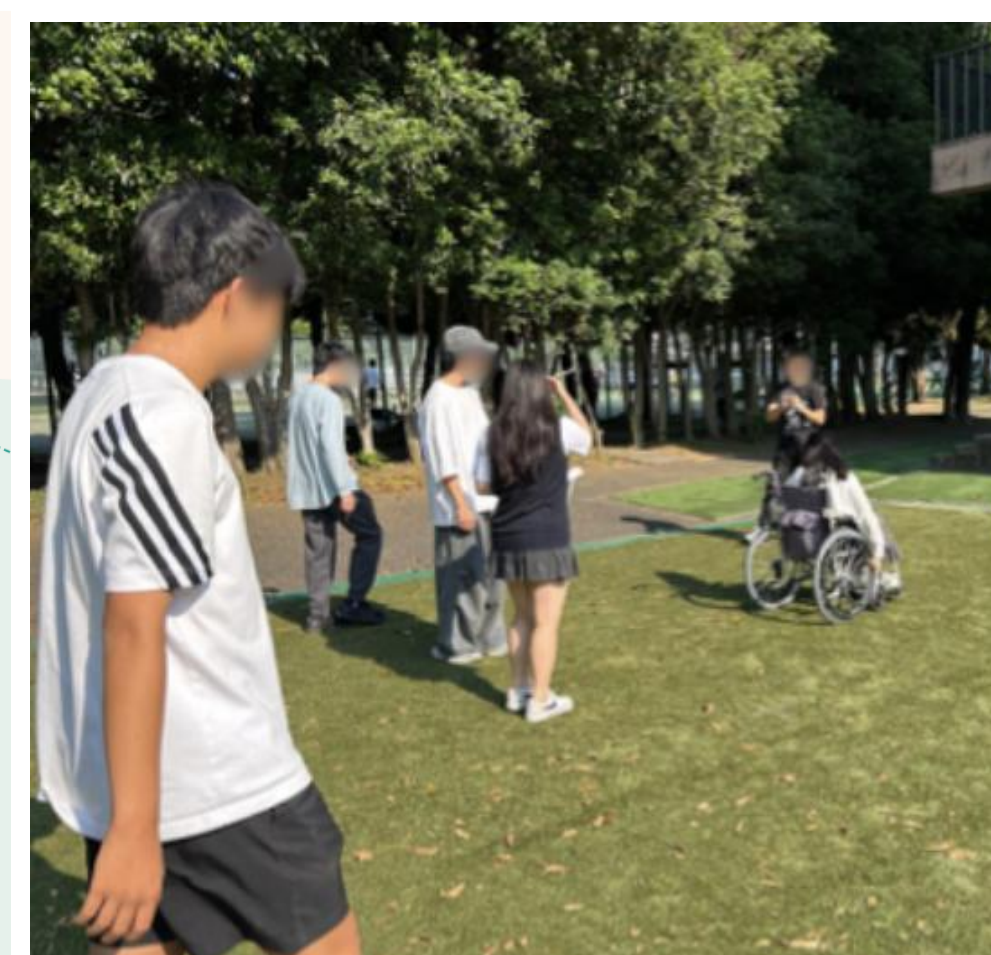
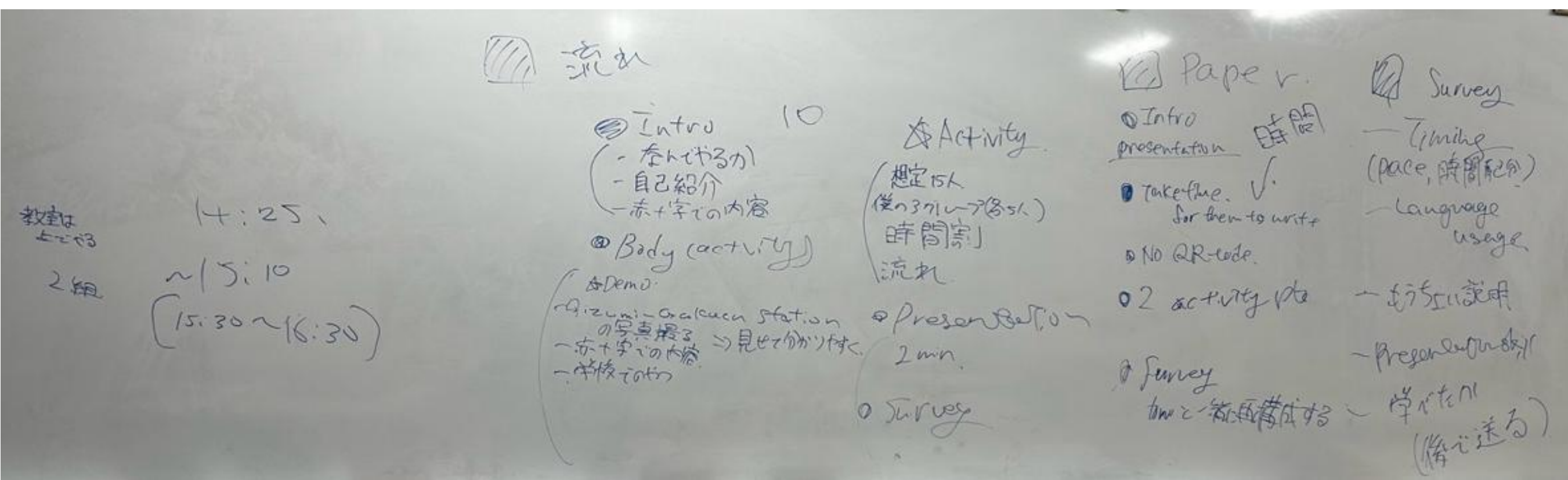
コミュニケーションスキル・批判的思考スキル



成果物のボランティアを企画する以前に、私は社会で行われているボランティアを知ることから始めた。その際、色んな人と**コミュニケーション**をとった。例えば、赤十字の活動で祭りの見回りを行い、困っている子供の対応するボランティアに参加した。このような活動に参加することによって、**批判的思考**も備わった。助けを求めている人の視点に立って助けることが大切だと学んだ。相手が何を求めているかを考えることで、より効果的にコミュニケーションを取れることに気づいた。

ATLスキルとの関係性②

協働スキル



このPPは英語のボランティアを企画していた同級生と協働した。私が企画する学校でのボランティアを英語で行い、互いのPPを同時に進めた。一回目に行った際、準備不足で失敗に終わった。その後、再度ボランティアを行うことを決め、ミーティングを行い、改めて方針や目標、どのように準備を進めるかを話し合った。また、イベントで使うワークシート、プレゼン資料、振り返りアンケートの作成や人集めの広報において、役割を分担した。このように、協働することによって、新たな視点から振り返ることができ、全体的に自分のPPをいい方向に進めることができた。

PPを受けて、これからの展望

私は、このPPでは失敗や試行錯誤の連鎖だった。自分では絶対にここまで規模を大きくもできなく、友達・仲間との協働やコミュニケーションなどの大切さを重々思い知った。そのため、ATLスキルを習得することはとても大切だと思う。そして、自分が感じた成長の過程は以下の図のようなプロセスで表されるのではないかと考える。これはどんなプロジェクトでも通じる話だと考えた。

自分が感じた成長の過程

挑戦

失敗

やり直し

成功

私の将来の夢として困っている人々を救えるような人になりたいと思う。私は、中学校での基礎活動を多く行ってきた。有効的に時間を駆使し、今ではやることの幅や専門性を高めている。そして、その小さな積み重ねがいずれ自分の夢の実現に向かうのではないかと考える。PPでは嫌でも何かを自分で完成させようとするため、自分の成長に必ず繋がるとは思っていた。何事も、挑戦できる課題研究やISSチャレンジよりハードルが低いため、個人的にはとてもやりやすかった。そして、PPで培ってきたスキルが他の活動でも繋がっていると感じている。部活では、リーダーではないものの、多くの活動を進めてきた。多くのところでリーダーシップを発揮し、みんなにも評価してもらえよう人間に少しずつなっているとPPで感じた。



PPをやって成長できる!!

夢の実現

専門的な活動

PPでの成長

中学校での基礎活動

三本の柱との関係性

国際教養・人間理解

① 多角的に問題に対して考える

普段車椅子利用者の視点に立ってみたり、車椅子に乗るといった体験をすることは少ない。学校での問題をしっかりと分析するためには、自分の視点だけではなく、その人になりきって考えることが何よりも大切だと考えた。それを自分だけではなく参加者にも行えたことは効果的だったと考える。これは社会に活躍していく中で必要な**国際教養**の視点で必要なのではないかと考える。また、車椅子利用者の視点に立って問題や難しさを探ってみることを行ったため、**人間理解**という側面でも優れたものとし活動を行い、成長をすることができたのではないかと考える。

② 企画を企画・運営する

企画を0から企画運営することは、今のAI化・ロボット化していく世の中で人間にしかできないスキルの伸長にも繋がったと考える。

